

會 報

第 10 号

平成 3 年度



滋賀県老人大学校同窓會

目次

1 挨拶 1

2 支部活動報告 3

3 会員文集 19

4 会員名簿 73

5 平成三年度経過報告 117

6 平成四年度事業計画 120

7 平成三年度会計収支決算報告書 121

8 同窓会十周年記念事業協賛金内訳 122

9 同窓会十周年記念事業協賛金支出内訳 123

10 同窓会十周年記念事業会計決算 124

11 平成四年度会計予算案 125

12 同窓会役員名簿 126

13 同窓会会則・憲章 127

14 同窓会表彰内規 129

15 編集後記 130

会報第十号の発刊

同窓会長 中川 長三

新しい年を迎え、インクの香清々しい会報第十号上に相見えて、多幸を祈り合う慶びを感謝したい。敢えて十に拘わるわけではないが、十年一と昔といい、人生の転換期。フシメ、十年たったら何とやらとも、年々歳々花相似たり歳々年々人同じからずで、慚愧の思い鬼籍的な憶いもあるう。空の心、喜び、感謝、敬いの心などなど、いろんな交錯の中の十年である。

滋賀県老人大学校創立十周年、滋賀県老人大学校同窓会結成十周年、そしてこの会報十号と、殆ど時を同じくしてのよるこびでなくてなんであろうか。

とまれ内外共に新しい秩序構築への躍動があり、グローバル、パートナシップがしきりに唱道されつつある時、滋老大は、県下に於ける老人の生きる最高学府としての矜持も高く、生き甲斐の創造と社会福祉への大いなる還元をめざしている。

又高齢化社会に棹さして、豊かな長寿社会の発展にささげつくし、自他共にゆるす今日の高い評価が盛り上りつつある。

又同窓会は漲る母校愛に燃えて、母校創立十周年、同窓会結成十周年の両記念事業達成に見る堅い団結によって輝かしい成果を挙げ得た。県下八支部の拠点にローカルカラーをみなぎらせた支部長を中核にした華々しい支部活動の展開も、本部活動（総務部・広報部・研修部）と呼応して活発である。

かくして十年。滋賀県老人大学校ならびに滋賀県老人大学校同窓会の基盤は鞏固に盤石の礎をきづきあげ得た。

この上にはどんな超高級の教育殿堂の構築も理想実現のためのあらゆる施設も思う存分に樹て得ると思う。

平成五年には、県のリゾート構想に老大が大きくクローズアップされて立派に生れ出づるものと確信している。

輪奐の美を誇るにとどまらず、老大の在り方萬般に大改革大躍進の晴れ姿を見たいものである。曰く課程に、カリキュラムに、募集定員に、教授講師陣に、職員組織等のすべてに、経営の妙諦は云うに及ばず、流石に江湖の老人の最高学府に相応しいものでありたい。

われわれは随分永い間、独立校舎、四年制、大学院、職業指導者養成、情報提供等々多彩に渉る配意をつくした滋賀県が遅くればせながらも全国に誇り得る老人大学校本然の姿を夢見て今日に到っている。盟友一千余の悲願が達成され県下老人の福祉向上の大殿堂たらしめたい。

会報十号は、林秀一部長、部員、支部長並びに堀野事務局長等の絶大な協力の賜で各ページに輝く珠玉、躍る感動はいづれも盟友諸兄姉の真摯純情の発露で、健康の維持増進をはじめ精神修養のいろいろ。“老醜”をいまして

“自適”これ悠々、友愛の輪を広げる願を、語ってつきない。
ねがわくは、生き甲斐の貴い糧となることを祈ってやまない。

支部報告

大津支部活動状況

支部長 高野 惣平

式典が開催され、会場が大津市内である関係上全役員留任と決定され可決承認されました。役員は次のとおり、

支部長 高野 惣平
 副支部長 磯田 善通
 庶務 石島千代子

監事 林 信夫

会計 石島千代子(兼務)

監事 田中 藤平 監事 知識 シゲ

理事 下司 清 理事 林 行雄

理事 辻 増三 理事 北川喜太郎

幹事 浜田 三次 幹事 奥田次良吉

幹事 山下 石松 幹事 川島 啓一

幹事 松山 清治 幹事 木村モト子

幹事 吉田 歳末 幹事 藤田 直喜

幹事 広田 きみ 幹事 草野 一子

県同窓会理事(同窓会副会長) 中村 標雄

同 下司 清

会議終了後懇親会に移り、終始和やかな雰囲気であった。

出席者七十二名

二、親善ゲートボール大会

平成三年度春の行事として、五月三十日大津市坂本市民セ

当支部は、平成四年一月一日現在会員数は一九七名であります。平成三年度における主たる行事を次のとおり報告します。支部の行事全般については、計画立案より実施に至るまでの間役員会において十分検討し周到なる準備と、綿密なる業務分担によって、行事を行っている。

一、支部定期総会

平成三年四月六日、大津市老人福祉センターにおいて、第七回定期総会を開催しました。来賓として老大同窓会長中川長三氏のご出席を得て盛大の裡に開催することができた。中川会長のご祝辞をうけたあと、支部長の前年度の反省と、本年度の事業に対する基本方針、並にあいさつに引続いて次の議案審議にうった。前年度会務報告、本年度事業計画案、前年度決算報告並びに本年度予算案はいづれも原案どおり満場一致可決承認されました。本年度は、支部会則第八条による役員改選の年であるため選出方法を選考委員会による選出をした。選考結果、平成三年十月、老大同窓会結成十周年記念

ンター前コートにおいて実施しました。参加者四十二名を到着順の抽せんにより、チームを編成し、二コートに分け試合はリーグ戦とした。成績は勝数及び得失点によって決定し一位から四位までに賞品を授与、幸い好天に恵まれ、無事終了し親交を深め目的を果すことができた。

三、研修会

秋の行事として、平成三年十一月十六日、滋賀県立琵琶湖文化館の見学と、大津市老人福祉センターにおいて、滋賀県琵琶湖研究所総括研究員倉田亮先生の講話を、琵琶湖の歴史、水量、千三百万人の水がめとしての利用状況、水質は軟水で飲料に済しているが最近の汚染対策、等々一時間余有意義な講話を拝聴した。出席者から好評を得た。出席者五十三名。

四、老大及び同窓会の行う行事への参加等

1. 平成三年六月十日 老大同窓会第十回定期総会が、草津市勤労福祉センターにおいて開催され、当支部からの出席者二十九名。

2. 平成三年九月五日 老大同窓会研修会「嵯峨鉄トロッコ列車と保津峡の旅え」七十五名参加した。

以上当支部の実施した行事の概況を報告します。

湖南支部活動報告

支部長 林 秀一

平成三年六月、本支部が県本部総会の会場をお引き受けして以来、十月には同窓会十周年記念式典が挙行され、又、トロッコ列車と保津川下りの旅に参加、或は、成果展に出品など本部活動の消化にかかった年でもあった。忙しい思いの中で、予定の支部活動が出来たのも、支部役員の方々の絶大な御協力の御陰であり、紙上を持って厚くお礼申し上げます。

年々支部会員数が増え、平成四年三月末では百六十名にも達しました。死去された会員も四名あり、人生でやれる事は、やり尽くして寿命を全うされた事と思ひ哀悼の誠を捧げると共に、ご冥福をお祈り申し上げます。現在会費不納入の会員は二十六名もあり、毎日をどんなに御暮らしか、安ぜられます。

湖南支部の場合、京阪神からの転入者の会員が多い。この方々等は、地域の人々の気風や地理を知りたいと思っておられ、支部活動が要望と、噛み合えばよく活動して貰えます。

支部行事で、支部総会の出席率も若干上がり、ご意見も沢山出てきて、自分達の会であることが意識され初めました事を大変喜んでいきます。

又、作品展も出品が多様に渡り、今年も出品意欲に旺盛なも

がある事を感じ取っています。

支部研修旅行では、志摩・賢島方面バス一泊旅行を計画しました所、大変な人気となり、他支部からの出席希望者も出ました。大津支部から三名。高島支部から一名。湖東支部から一名を受け入れて、実施しました。殊に高島支部からの参加者一名については、堅田駅迄往復ハイヤーで送り迎えをして、要望に応えました。他支部からの参加者を交えて、交流会を実施しますと、わが支部の長所や短所がよく分かり、今後の改善に大変役立っています。今年度も支部主催の一泊バス旅行を計画しますので、大勢の方々の参加をお待ちしています。

次に、支部役員一覧表を掲載しますが、濟んだものよりも、今年頑張って貰う人を掲げた方が良いのではないかと思っておりますが、会員の方々の御批判を御願ひします。

平成4年度湖南支部役員名簿

支部長	5文	林 秀一	525	草津市西渋川1丁目16-64	62-5148
副支部長	5園	大西 憲司	524	守山市金森町683-1	83-1425
会計理事	8陶	伊藤 治初	525	草津市野村2丁目21-32	63-1041
理事	6園	森元喜久蔵	525	草津市東草津3丁目4-6	62-1737
理事	9陶	藤本 龍三	525	草津市野路町136-48	62-4732
理事	9生	福井しげの	525	草津市南笠町1075-4	62-4157
理事	11生	板村 照子	525	草津市野路町363-25	64-3491
理事	11生	古川千鶴子	525	草津市東矢倉3丁目4-14	62-3210
理事	5園	井上 一男	524	守山市守山町553-5	83-1365
理事	7文	中西 信男	524	守山市十二里町308	85-2705
理事	8生	日比 園子	525	守山市金森町140-97	83-3717
理事	9陶	中村 勝一	524	守山市吉身1丁目10-18	82-3471
理事	8園	中村 利夫	520-06	滋賀郡志賀町南小松214-1	96-1469
理事	10園	中井 良知	520-05	滋賀郡志賀町八屋戸340	92-0054
理事	7生	林 愛子	520-30	栗太郡栗東町蜂屋75	52-2835
理事	12陶	亀田 貢	520-30	栗太郡栗東町出庭875	52-1715
理事	6陶	西田 三郎	520-23	野洲町南桜近江富士1460-96	88-2677
理事	6生	富田もとよ	520-23	野洲郡野洲町久野部197-1	87-5078
理事	7園	石井也尺寿	520-23	野洲郡野洲町小篠原1128-3	87-0397
理事	9園	田中 一男	520-24	野洲郡中主町比江916-1	89-3696
理事	9園	薄水 金三	524-02	野洲郡中主町菖蒲262	89-3079
監事	3陶	嶋 鉄男	525	草津市野村2丁目21-1	62-0385
監事	2陶	永田 義一	520-23	野洲郡野洲町野洲119	87-1747
顧問	3文	伊藤 博祐	525	草津市野村1丁目11-9	64-6881

甲賀支部活動状況

支部長 島田寅治郎

平成三年度、滋賀県老人大学校同窓会甲賀支部の活動状況を報告致します。内容は当支部独自に取り組みました行事や県同窓会への参加状況・感想や意見を纏めました。何かの糧となつて、同窓会の発展と会員の仕合せに繋がれば有難いと存じます。

A、甲賀支部会員数（四・一現在）

町名 会員数 摘要

石部町 一〇 (B)

甲西町 二九 二科卒業一名 (A一)

水口町 一二 (A一)

土山町 二 (B)

甲賀町 一〇 (B)

甲南町 一二 (B)

信楽町 一二 (B)

合計 八七 A二外はB

B、甲賀支部役員（四・一現在）

支部長 島田寅治郎

副支部長 千代倉太郎

庶務会計 橋本清一郎

会計監査

大谷 吉一

理事

山本公治郎

同

嶋津勇之助

同

小笠原武夫

同

雀部 つる

同

金山 良吉

同

増田 信之

同

澤 忠志

同

黄瀬 由子

顧問

丸市 喜好

C、甲、支部物故者は一六名（四・一現）になりました。御冥

福をお祈り申しあげます。

D、滋老大本部事業に参加。

(イ) 平成三年度滋賀県老人大学校同窓会総会への参加。

・ 期日、平成三年六月十日（月）AM 一〇～

・ 場所、草津市勤労福祉センター（JR草津駅西口下車）

・ 甲賀支部出席者 一四名

(ロ) 県老大同窓会研修会に支部員の参加

・ 期日、平成三年九月五日終日。

・ 場所、保津峡下り嵐山嵯峨野散索トロッコ列車の旅。

・ 甲賀支部参加者 一一名

(ハ) 滋賀県老人大学校同窓会結成十周年記念式典、参加

・ 期日、平成三年十月五日(土)。

・ 場所、大津市におの浜三〇二二五

アヤハレークサイドホテル。

・ 甲賀支部出席者 二七名(申込をして当日欠席者あり)

(ニ) 平成三年度県老大成果展、出品について

・ 期日、平成四年三月四日～三月九日

・ 場所、大津市浜町、滋賀銀行本店、経文ホール

・ 応募資格、県老大卒業生・在校生

・ 甲賀支部の参加、総て現在進行形である。

以上本部の計画は、総て支部員にアプローチして、各自の判断で積極的に参加を願っている。従って十周年記念式典の様に、自から出席に〇印をされて忘れられた御仁や、出席数を限定される場合責任者が困ったり、出席者から当日会費を頂く場合の受付が不充分であったりする。もっと皆で笑える雰囲気がいと思う。

E、甲賀支部行事の報告

(イ) 同窓会結成十周年記念協賛金募縁一〇七口・二二四〇〇

〇円、夫々御協力有難くお礼申しあげます。

(ロ) 支部総会の開催

・ 期日、平成三年五月十五日。

・ 場所、滋賀県立老人福祉センター碧水荘。

・ 議題、平成二年度事業並決算承認、平成三年度事業並予

算審議、会費納入その他

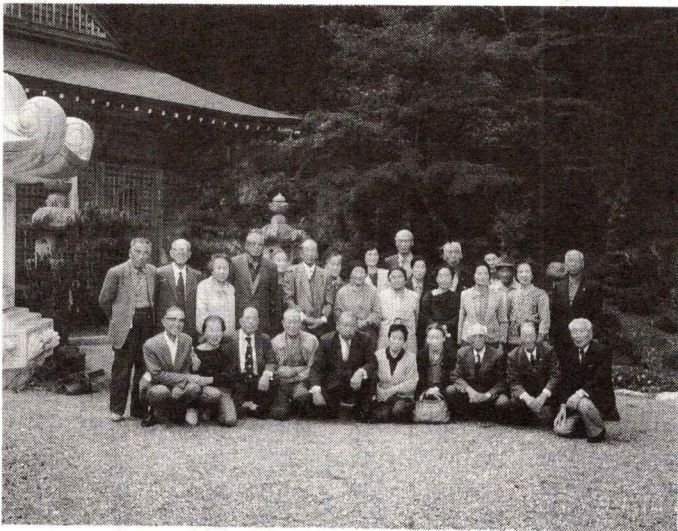
・ 当日、出席多数、意見交換や発言活発和気藹々のうちに、

穏やかに終る。

(ハ) 研修会の実施

・ 期日、平成三年一〇月二八日(月) 晴天不論

・ 予定地、甲南町杉谷岩尾山辺り・寺(岩尾山息障寺)。



岩尾山研修のスナップ
? 2~3の顔が見えない

ございました。(END)

魔がい仏・句碑・自然歩道・一本杉(天然記念物推定一〇〇〇年以上)・此の辺り一帯、最澄開基と伝えられ、比叡山延暦寺の末寺になり、巨岩には像高5mの不動明王立像が刻まれ、周囲を走る山道には魔崖石仏が群がり、山岳仏教の聖地となっている。

・参加者も多勢で当初立案した高齢化社会を生きる実践力を高め、積極的に活動に参加し、しなやかに、ひびき合いつゝ、友と語り合い、自然と親しみ、意義深い研修の一日に終わったよう有難い事である。「こだわりの岩尾の聖地紅葉す」参志

(二) その他

同窓会本部役員会への出席、各町理事様の御活躍と会員各位の自覚の有る対応に関し、紙面を借りて、厚くお礼申上げます。

お蔭様で、同窓会本部各行事や当支部の活動もスムーズに運び嬉しい極みでございます。そして一步一步の大切さを心して事に処し、今の積み重ねを基に、流れる水の如く、何時も新鮮な出合を旨に、すがやかに、老いを学びて地域社会への関わりを深め、高齢者の生甲斐や福祉の在り方を探り、本県が設置された老人大学の趣旨に悖らない様、卒業生(同窓生)として、先の少ない人生を燃やし続けようではありませんか。有難とう

湖東支部活動状況

支部長 大道喜一郎

一、会員数 一六六名
内 訳

市町名	会 員 数	
	男	女
八日市市	12	5
安土町	7	4
蒲生町	8	2
日野町	14	2
竜王町	9	5
永源寺町	6	0
五個荘町	12	3
能登川町	19	8
計	87	29
	116	27

二、支部役員

支部長

大道喜一郎

副支部長 高倉嘉兵衛
平成三年十二月辭任

横山久太郎
平成四年一月二十四日選任

監事 中村 圭三

中田 芳雄

本部理事 高倉嘉兵衛
平成三年十二月辭任

横山久太郎
平成四年一月二十四日選出

理事 八日市市 伴 清一

安土町 木俣 信一

蒲生町 吉川 一郎

日野町 野沢 政次

竜王町 園田九二男

永源寺町 小西 康三

五個荘町 山村太兵衛

能登川町 田井中元一

庶務会計 横山久太郎

三、事業

(1) 滋賀県老人大学校同窓会十周年記念協賛金を湖東支部よ

り金二十一万三千円也を抛出

内訳

一般会員 一口 二〇〇〇円

支部役員 二口 四〇〇〇円

支部長 五口 一〇〇〇〇円

一般会員中 三口 六〇〇〇円 一人

一般会員中死亡者一名 一〇〇〇円

(2) 平成三年五月十七日

県老人福祉センター八日市延命荘に於て午前十時より湖

東支部役員会を開催

平成二年度会計決並三年度予算編成、支部第八回総会の

件支部会則の一部改正、県老大同の理事推薦、三年度会費

納入等に付協議

(3) 五月二十七日

午前十時より老大同湖東支部第八回定期総会を日野町勤

労福祉会館に於て開催

来賓

県老大同 中川会長

日野町長代理 大野総務課長

日野町老ク連 満田会長

出席人員 三十名

議事終了後同所に於て懇親会に移り午後三時盛會裡に開

(4) 五月二十九日

午前十時より大津市県厚生会館に於て本部役員会が開催

散

され支部長、副支部長（本部理事）出席

案件、本年度県総会及十周年記念事業について

(5) 六月十日

午前十時より県老大同窓会が草津市勤労福祉センターに於て開催され湖東支部より七名出席

(6) 九月五日

県老大同研修日帰り旅行

保津峡下り、嵯峨野散策、トロッコ列車乗車、当支部より参加者五名

(7) 十月五日

午前十時より大津市アヤハレパークサイドホテルに於て県老大同十周年記念式典が挙行され当支部より二十九名が出席。地域指導者として当支部より左記二名表彰さる。

文芸科 二期生 川部伊三郎

文芸科 六期生 山村太兵衛

(8) 十二月十三日

午前十時より県厚生会館に於て本部役員会 支部長出席 案件、老大成果展及同窓会誌第十号について

(9) 平成四年一月二十四日

八日市延命荘に於て支部役員会開催、支部副会長並に本部理事の高倉氏辞任に伴う後任の選出、老大成果展の出品

及同窓会誌第十号の原稿取纏めを行う

(10) 三月四日

成果展出品物を大津滋賀銀本店のホール（会場）へ搬入 日野地区理事野沢氏と支部長が之に当る。

当支部出品者は次の七名

六期生文芸科 野沢 政次

八期生文芸科 田口 敏之

十期生文芸科 横山久太郎

四期生文芸科 大道喜一郎

十期生生活科学科 野沢 はつ

五期生文芸科 平田 タツ

十一期生生活科学科 白川 つぎ

(11) 三月九日

成果展出品物撤去、搬出

(12) 三月十二日

大津市共済会館びわこに於て同窓会誌第十号の編輯会議が開催され支部長出席

以上

近江八幡支部活動状況

支部長 村井 繁一

当支部は、平成三年九月以降会員数は百四拾三名である。平成三年度の今日までの主たる事業は次の通り報告します。

一、定期総会

平成三年四月九日支部定期総会開催される。本部より中川会長殿を始め、市福祉事務所長、市老ク連会長殿の臨席をいたび開催される。日程により平成二年度事業及び会計の報告、平成三年度の事業計画案、予算案共々慎重審議の結果可決される。次いで本年度は支部規則に基き役員の変更に当り、協議の結果銓衡委員会に図ることになり、審議の結果小生を始め後記の諸氏が指名されることになり、大役を痛感した次第である。議事凡てを終了し懇親会に移る。終始和やかな雰囲気得意を強くした。

二、事務引継ぎ会開催

役員の変更が終り事務引継ぎ会を開催新年度運営の第一歩を踏み出す。新任は正副支部長、庶務、婦人部長等五名、会計は留任となる。(四月十六日)

三、五月二十日、役員及び各学区幹事合同協議会の開催

協議主題 1.本年度支部事業計画とその実施法について

2. 県老大同窓会総会出席について(県本部役員会の報告を兼ねて) 3. 支部会報第十号発行について 4. 県老大会一般公開講座開催と聴講依頼について

四、六月十日、県老大同窓会平成三年定期総会草津市勤労福祉センターにて開催される。当支部より二十名出席す。

五、七月一日支部役員会の開催 1. 支部会報第十号発行について、八十有余名の投稿をされその編集に当る。 2. 本部署会の報告、県老大同窓会結成十周年記念式典支部出席割当四十名を如何にするかを協議す。

六、七月三十日、婦人部役員会の開催。出席者は支部役員と各学区婦人部委員計十三名。協議事項は次の通り。 1. 第四回ふるさと探訪実施について。この事業は婦人部の主催で計画実施に当る。市福祉バスの都合で実施日は九月二十日と決定。目的地は大津を中心とする。 2. 婦人部の行事としての集い何時するか。協議の結果、開催日時十一月八日、会場八幡公民館、主題手芸教室「ピエロのタオル掛け」、申込み締切は準備の都合上十月二十日までと。

七、八月十九日、支部役員会開催。協議内容は支部会報十号が印刷され校正を行う。

八、九月二日、金田公民館にて役員幹事婦人部委員合同会議開催。 1. 県本部研修旅行について、支部参加者の報告と注意

事項について。 2. 県同窓会十周年記念式典出席者数の確保について。 協議の結果各学区別会員数割に按分することに決定す。

九、九月五日、本部研修部主催研修旅行「嵯峨保津峡下りとトロッコ列車、嵯峨野探索」当支部より二十九名参加す。

十、九月二十日、支部事業婦人部主催「ふるさと探訪」の実施
市福祉バスにて目的地大津へ。見学地 1. 浮御堂内部拝観、
2. 初邸、3. 朝陽山光徳寺「堅田源兵衛殉教の首塚」 4. 大津
歴史博物館見学。 5. 日吉大社参拝。

十一、十月五日、同窓会結成十周年記念式典大津市におの浜ア
ヤハレークサイドホテルにて挙行される。当支部より四十名
出席し、尚次の三氏が表彰さる。中嶋庄右衛門、吉川保三郎、
安倍勉の三氏。式後祝賀会に於て中嶋庄右衛門氏特技手品を
披露さる。

十二、十月十七日、第六回親善ゲートボール大会を土山かもし
か荘にて開催、折悪しく雨になり試合が出来ず午前中室内ゲ
ーム（数字合わせ、丸箸での碁石拾い、その他特技の発表）
で花を咲かせ続いて懇親会に移り終始和やかなうち二時半帰
路に着く。

十三、十一月八日、八幡公民館に於て婦人部の集い手芸教室開
催。二十六名の参加を得盛会に終始す。ピエロのタオル掛け

を作る。指導者は富田婦人部長、高原委員の二氏。

十四、平成四年一月十三日、平和堂三宝にて役員幹事委員合同
協議会を開催す。協議事項は次の通り。 1. 第二回老大成果

展の開催について。 2. 老大同窓会会報十号発行と当支部割
当原稿用紙二十二枚の配布と投稿について。 3. 講演会の開
催について。日時、会場、講師について協議の結果次の通り

決定す。日時は講師及び会場の都合により決るが会場は、滋
賀銀駅前支店二階ホール、講師は竜王町公民館長谷村三郎氏
と決定す。協議会終了後新年会を開宴、新春のこともあり
抱負の交換など終始活発、賑やかなひと時を過し、今年も支
部運営に協力努力することを誓い散解す。本日の出席者は二
十一名なり。

十五、本部並に支部事業で残されたものは次の通りである。

1. 老大成果展 三月四日より九日まで滋賀銀本店にて開催。
当支部の管理当番は七日で四名出場する。尚当支部よりは
十六名の応募者あり、十六点の作品を出展する。

2. 老大同窓会々報第十号発行については、当支部割当て原
稿二十二枚現在集りつゝあり、二月十五日締切り支部に一
応編集を行い本部に送付す。

3. 支部事業、講演会の開催 三月十二日滋賀銀駅前支店二
階ホールにて、講師は竜王町公民館長谷村三郎氏、演題は

「どうらく再発見と生きがい」である。

4. 支部役員会の開催 講演会終了後同会場で、平成四年度定期総会の開催日時、会場、総会内容とその準備等について協議す。

5. 当支部の会員総数は百四十三名で、内十九名は平成三年九月二十日第十二期生として卒業された新入会者で、新進気鋭の方々ばかりで大変力強い限りである。

6. 三期生活科卒の川瀬 栄さんが転居先娘さん宅で逝去され、今この報告書を清記中、平成四年二月五期園芸科卒服部員一氏の急逝された連絡を受け、両氏とも支部運営のため大変なご苦勞を賜わった方であり、続いて大先輩を失い本当に淋しく心よりご冥福をお祈りする次第です。

最後に平成三年度改選された新役員は次の通り。

- 支部長 村井 繁一
- 副支部長 中谷 清司
- 同 富田 政尾
- 庶務 北尾 正一
- 会計 岡田富治郎
- 会計監査 岡田英多良
- 婦人部長 富田 政尾
- 幹事 八幡東 北川伊太郎

幹事 八幡東 辻 尚子

八幡西 深尾 竜平

島 辻 清一郎

岡山 辻 正一

桐原 小林太三郎

〃 伏西千代子

金田 中西 勲

〃 大川 竹

馬淵 岡村金次郎

武佐 安田 泰三

北里 三崎 重蔵

婦人部員 八幡東 辻 尚子

八幡西 吉川カズエ

岡山 岡田 茂子

桐原 生田 薫

金田 高原ふみ子

馬淵 一三太加

武佐 安田 可ね

北里 芝 きくゑ

註 幹事・婦人部員は学区選出す。

彦根愛犬支部活動状況

支部長 野中 正

彦根愛犬支部も第十二期生を迎えて一一九名の会員数に成り各自がそれぞれの地域において地域の発展更に会員相互の親睦を図るため、お互に努力して居られることと存じます。

平成三年度支部行事についてご報告致します。

三年度支部総会は愛知郡にてお世話して頂く順番にて計画していただきました所湖東町福祉課のご好意並びに地域の役員様方のご努力により、湖東町プラチナハウス内教養娯楽室に於いて、総会を開催することに相成りました。

同窓会憲章朗読に始まり、定義ながら諸報告、収支決算等承認。終了後は懇親会を開き終日和やかな雰囲気で盛会裡に終りました。ご来賓として中川同窓会々々長には遠路の所ご臨席賜り更にご祝辞を頂き誠に有難く厚くお礼申し上げます。

総会に際しては湖東町福祉バスにて送迎して頂き有難くお礼申し上げます。

県同窓会研修部による研修旅行は九月に実施されました。保津峡下り嵯峨野散策で支部でも多数の参加者が有りました。今後の催し等については何らかの方法で連絡致し度、多数のご参加をお願い致します。

県同窓会設立十周年の記念式典が十月大津市アヤハレークサイドホテルで挙行されました。会場の関係上、当支部より二十五名の方が出席され、その席上地域功労者として三名の方々が晴れの表彰を受けられました事は喜ばしい次第でありお祝申上げます。

会員の皆様、本部支部の行事には格段のご協力をお願い致します。当支部も地域の関係上十分な連携も出来ずご迷惑をかける事と存じますが、今後は連携を更に密にし、同窓会発展のため努力致します。

何とぞ会員の皆様宣しくご推察賜り、ご指導ご鞭撻の程お願い致します。

本年度支部役員左の通りです。

支部役員名

支部長 野中 正

副支部長 辻 幸夫

会 計 川村 順茂

事務局 中島藤五郎

幹 事(愛知郡) 北川弥一郎

" " 上原繁太郎

" " 藤井 正之

" " (犬上郡) 元持孫太郎

幹 事 (犬上郡) 西沢 正三

濱野喜三郎

杉本文治郎 (彦根市)

井戸 弥一

西田 吉男

国領 敏子

磯貝 澄雄

若林 秀光

平成三年物故者

児島 こと 福祉 一期生

村田 穂 生活 四期生

寺沢近次郎 スポーツ 十一期生

湖北支部活動状況

支部長 森 量海

さきに一言

「老卒業生の一員として最近に思うこと」

滋賀老創立開校時より本年度で早や十二期卒業生を迎えまし
た今日、校舎一堂に収容する事が手せまになり「大津」と「米

原」に分校となりました。この分校でそれぞれ学習内容が少し
づ、相違しておるよういき、およんでいます。さらに高令者が
増加しつつある現状であり入校しようとする希望者もより一層
多くなる事と思いますので、早急に県内の何れかの適当なる地
に「全日制」の独立した老人大学校舎を建設し一日も早く開校
される事を切に念願します。

同時に開講の暁には特別一般教養講座を開講の時には卒業生
も希望者は随時聴講出来る様、善処方を要望します。

なお十二期までに多くの卒業した方々にはそれぞれ各地域で
一人ひとりが指導的立場にたつて、老で学んだ、最高の知識
を最大限に活用して地域の高令者の生き甲斐ある「幸」つくり
を普及して行く事が我々に果せられた唯一つのつとめかと思考
されます。

折角さずかった最高の知恵を一人心中の中に奥深くしまいこむ
事なく多くの人々の仲間に分け合う様に仕様ではありませんか、
「徒らに馬令を加える勿れ」この格言どおり、思うまゝに一言
申し上げました。

では次のとおり支部活動状況を要約し報告します。

記

一、五月二十九日、平成三年度・支部総会・(勤労福祉会館)

1. 規約の一部改正

2. 会計決算報告並びに監査報告。
3. 支部会員名簿の作成配付。
4. 役員改選の結果、別表のとおり、以上可決しました。
- 二、六月十日、本部総会、草津市内、八名出席（会誌九号のとおりで省略します）
- 三、七月十二日、第一回目支部役員会議、十一名出席。
1. 支部並びに本部会費の納入について
2. 本部、九号会誌の配付方について
- 四、九月五日、本部研修部会、秋の研修旅行（日帰り）嵯峨野（トロッコ）～保津峡下り、支部、五名参加
- 五、九月七日、第二回目支部役員会議、十三名出席。
1. 十周年記念式典参加について、（同式典、被表彰者推薦の件含む）
2. 地域指導者の調査（自己申告の件）
3. 十二期、卒業（九月二十日）生、三十四名に対し当湖北支部会員名簿（十二期生を含む）を作成し手渡し又は郵送して迎える。
4. 公開講座No.1・2、配付について
- 六、十月五日、十周年記念式典・大津市内、支部、十八名参加
- 七、一月二十三日、第三回目支部役員会議、十一名出席。
1. 十号本部会誌の発刊について、又今回は（本部予算上限

られた原稿）当支部十四名

2. 本部成果展（作品展）参加、出品方について。
3. その他、当支部会員相互の親睦と交流を図りより一層の活性化のため旅行（研修）を考えておりますので、会員の皆様、行先等を事務局か、近くの役員まで申越下さい。
- 八、三月五日～三月八日、本部成果展（作品展）大津市内しがぎん本店、当支部より十四点のご出品、ご協力のほど有難うございました。
1. 三月四日、会場へ搬入。
2. 三月九日、会場より搬出しそれぞれ出品者へ返付しました。
- 九、その他、何でも結構ですでお気付の点をどしどし、事務局並びに別表の役員へお申出下さい。

以上

滋賀県老人大学校同窓会湖北支部役員名簿

平成3年度

役職名	氏名	住所	〒	電話	備考
支部長	森 量海	長浜市常喜新町 281	526	(0749) 62-3910	(期・学) 3 文
副支部長	松下 保清	坂田郡米原町三吉 36	521	" 54-2395	8 陶
	秋野 昇	東浅井郡虎姫町本町 1045	529-01	" 73-2644	6 園
	林 憲雄	伊香郡木ノ本町木ノ本 739-5	529-04	" 82-3640	11 文
幹事	広部庄太郎	長浜市口分田町 851	526	" 62-6601	6 文
	清水 満子	" 朝日町 3-16	"	" 62-1650	9 生
	正福寺孫太夫	" 堀部町 591	"	" 62-2762	11スポーツ
	音居 三郎	坂田郡近江町寺倉 309	521	" 54-1173	3 陶
	中川寿美子	" 近江町長沢 1045	"	" 52-1365	6 陶
	林 春三	" 伊吹町村木 1151	521-03	" 55-1377	11 文
	藤井 峯子	東浅井郡虎姫町唐国	529-01	" 73-4104	6 文
	辰己 外弥	" 虎姫町大字大井 1229	529-07	" 73-3806	7 園
	大比叡留次	伊香郡高月町落川 102	529-02	" 85-2907	11 園
	田辺 一	" 木ノ本町千田 115-6	529-04	" 82-4160	11 園
監事	西嵐スミエ	" 高月町字根 365	529-02	" 85-2112	7 生
	横田 定雄	東浅井郡虎姫町中野 361	529-01	" 73-2857	11 文
県本部役員 森 量海 松下 保清 (湖北支部事務局庶会担当兼)					

高島支部活動について

昭和五十七年から開設されて以来益々卒業生も多く充実しつつある今日、心からお喜びいたします。高島支部に於きましては、駒井会長から辻盈三氏当時は誠に活発に行動されていましたが本年度につきましては低調でありつくづく反省して居る次第であります。たゞ一ツ天津の滋賀銀行二階にて開催されました同窓生の成果展でありました高島郡から七点の作品の出陳を戴いた事であります。

香 炉	岡 田 順 治
短歌短冊	中 西 巳生子
俳句短冊	松 下 芳 子
俳句 額	桑 原 文 子
軸	桑 原 俊 雄
漆塗てっせん	弘 部 ふ み
軸	中 島 捨 雄

展示は以上の通りであり、皆さんの勉学の成果心のこもった作品その人がらが作品に表現されたゞ感嘆するばかりでありました。

高島郡同窓生現況

高 島 町	一 四
安曇川町	一 四

新旭町	八
今津町	一三

朽木村	一
神戸在住	一

十二期生迄	五一
-------	----

五一名中明治生れの方が六名居られますがくれぐれもご健康で金さん銀さんの様にお達者であります様お祈りいたします。

新年雑感日記

三期生文芸科 増田 三郎

一月一日水 曇一時晴

新しき日記帳の目録さつづき年明の雑感を書く。

平成四年の元旦、夜は曇が多く朝日の出は暗くない。陽春が

陽春を感ずる。朝の間に曇る。新

今年一年の事を方たつてその感想

を記す。一月三日晴、晴時々曇

朝早く陽が射す。新する代神に感謝

長男一葉が年賀に来る。見守る

でに出かける。長等神社に詣り祈祷

を済められた境内には人影はま

る。早く帰る。

大津支部

老春開花

四期生文芸科 正岡吉二郎

私物の近くには長等公園がある。私の幼少時代の時中々の古

公園の東側に有るであり、その中心の古い桜木である。

一、ささなみや志賀の郷は、あねにしち、昔ながらの山嵐な

平清盛の弟の平忠房の都落ち、長等山をおりてくる時に詠んだ

歌をよ、古木は死せず、歴史を残す。人間も青春は去りてシカ

バはなりて老春はある、樹齡八十の老木も必ず一年に一回

は開花し人を喜ばす。人間も老春を問はず花を咲かす責任あ

り。春は心の持ちかである。心はあなたの中の花を咲せる。

ベタンクについて

五期生理芸科 横田 善道

ベタンクと云うスモムをこぼすのか。聞きなれないが

ほうが多いかも知れませんが、戦、市が普及を進めてい

るベタンクの一つです。スボトフを云うより、せよん

と云います。遊びのようなので毎年世界選手権も開かれる

夕暮は、フランスが産地の地。日本では福岡県と

行なわれ高台者の間ではゲートボールに次ぐ人気を博してい

ます。昨年十一月十七日皇千山総合運動公園で行なわれ

陸空の下で熱戦を繰り広げ、当日の試合では優勝した

チーム共に入賞しました。メンバーはいずれも

会員だより

新年短歌日記

一月一日水 曇一時晴

新しき日記帳の頁開きつつ年頭所感の構想を練る

平成四年の元旦、空は雲が多く初日の出は拝めない。屠蘇と雑煮を祝って、机の前に座る。新しい日記帳を開いて心静かに今年一年の生き方についての構想を練る。

一月三日金 晴時々曇

親子孫揃いて詣ずる氏神に冬陽は淡く人かげまばら

長男一家が年賀に来る。息子に車椅子を押してもらって初詣でに出かける。長等神社に詣り気持を引締めて拍手をうつ。掃き清められた境内には人影はまばらに見えてうす陽がさしている。

老春開花

四期生文芸科 正岡吉三郎

私宅の近くに長等公園がある。私の幼稚園児の時から古い

桜木あり。四月には満開の美しい桜花を咲かしてくれる。長等公園の夜桜で有名であり、その中心の古い桜木である。

「さざなみや志賀の都は、あれにしも、昔ながらの山桜かな」平清盛の弟の平忠慶の都落ち、長等山をおりてくる時に詠んだ歌です。古木は死せず、歴史を残す。人間も青春は去りてシルバーになりても老春はある。樹齢八十の老木も必ず一年に一回は開花し人を喜ばす。人間も老若を問はず花を咲かす責任あり。それは心の持ち方である。心はあなたの中に花を咲せる。

ペタンクについて

五期生園芸科 磯田 善通

ペタンクと云うスポーツをご存じですか。聞きなれない方のほうが多いかも知れませんが、県、市が普及を進めているニュースポーツの一つです。スポーツと云うより、ゲーム感覚で楽しめます。遊びのようなもので毎年世界選手権も行なわれるペタンクは、フランスが発祥の地。日本では昭和四十六年頃から行なわれ高令者の間ではゲートボールに次ぐ人気を持っています。昨年十一月十七日皇子山総合運動公園で行なわれ爽やかな秋空の下で熱戦を繰り広げ、当日の試合では瀬田チームが二チーム共に入賞しました。メンバーはいずれも初心者でしたが、

すぐゲームは覚えられ、時間もかからず、場所も普通自動車二台分程あれば充分出来ます。チーム人員は、一チーム各三名がトリプルス、各二名ダブルスがあります。試合は手軽に楽しめます。一度やってみようと思う方はどうですか。

参謀たちの戦争責任

五期生文芸科 山本 良雄

この正月旅行を機会に車中で次の二冊を読んだ。神話の崩壊（五味川純平著文春文庫）凡将山本五十六（生出寿著徳間文庫）関東軍の参謀たちが如何にやりたい放題のことをやって、われわれの青春を奪っていったか。山本五十六は果して国葬の価値があったのか。陸士、海兵にパスした者は当時秀才としてもはやされたものだが、その秀才たちの多くが狂人のように戦争に突入していったのはなぜか。この戦争を確固とした視点で語りつがなければ、われわれは長生きしている意義はない。まだお読みでない方にはぜひご一読をお勧めしたい。

（九二・一・一一）

喜寿を迎えて

五期生文芸科 高野 たみ

年内余日も少なきある日、平成四年元旦の午後一時より、若松神社（氏神）にて喜寿の御祈禱をと言うて集金に來られました。一瞬人ごとのようなためらいさえ感じ、早や私も七十七才月並乍ら「光陰矢の如し」、昭和十二年結婚して四人の子供夫婦八人、孫八人主人共々健康に感謝の毎日です。五十七年老大五期文芸に入学。そして卒業して既に九年、喜びあり、悲しみに耐え人の世のしがらみ乗り越えて現在となりました。ここに改めて、古人の教訓を身に泌み味っています。

- 一、自分には厳しく人には寛大なれ
 - 二、丸い玉子も切りよで四角、ものも云い様で角がたつ
 - 三、地平らかで天成り内平らかで外成る
 - 四、年を重ねただけで人は老いない希望を失う時初めて老いが来る
 - 五、歳月は皮膚の皺を増すが、情熱を失う時には精神も萎む
- 全くその諺を身につまされて感銘しています。紙面の都合で最後に拙い歌一首を
- 一、断ち難き想いさまざま喜寿迎え有難きかな今の静けさ

長寿と健康

六期生陶芸科 仙頭 利子

平成四年の元旦も健やかで爽やかな正月であった。健康で長生きは多くの人の願望である。併し長生きには個人差があるので、人まねは出来ない。自分にみ合う事を考えるがよい。長寿の秘訣は「頭を使う事を止めない、考えたり作り出したりして、前頭葉を働かす事がよい、趣味と実益がともなうと一層よい。自分に適切な運動を適度にする。休む事なく毎日続ける。運動不足は万病の基。今からでも遅くない。全くツイペースで出来る運動もある。それは「歩く」毎日休む事なく徐々に努力する。いつの間にか習慣化、家庭化して以外に効果的である。つまらないことに、くよくよしない、孤独、大敵、追いはらうため努力をすること、食生活をいゝ加減にしない。要注意!!

薔薇

六期生文芸科 益田 綾

薔薇ノ木ニ

薔薇ノ花咲ク。

ナニゴトノ不思議ナケレド。

ばらの花に魅せられて、じっと思いを深めている白秋の姿が目
に浮びます。ばらの木だからばらの花が咲く。彼は自然科学の
論理で一応納得するのですが何故か心の深みに触れて来ません。
その奥に論理を越えた何か神秘を不思議を感じているのです。

みどり子なりし

今老いてあり。

なにごとの不思議なけれど。

来し方に時間と物理を越えた不思議を私も感じています。計り
知れぬ天に組み込まれている生命や人生の深みを噛み締めてい
ます。

私の昨今

六期生文芸科 猪飼 操

喜寿を迎へ、三年來の病気を治療しながら、史跡旅行ドライ
ブ等私なりに生きがいを見出して至極元気で居りましたが、去
る十月嫁の死去、一時は落込みましたが、日が立つに伴い自信
も付き孫二人の学校、息子の出勤等家庭生活一切を任せられ多忙
な日々を過して居ります。昨今では自分の時間も悠くりとれる
ようになりました。暖くなれば外の空気を思う存分吸って、地
方へドライブするを楽しみに元気で頑張っ居ります。親しい

友達よりの励ましの電話、又お尋ねを頂き大へん感謝致して居ります。

健康に感謝

七期生陶芸科 原田 なみ

私は四人の姉妹がいます。一番上の姉が八十七才、次の姉が八十四才、次の姉が八十一才、そして私は七十四才でございます。おかげ様で皆元気で、健康な日々を送って居ります。それに皆が元気で、ゲートボールが大好きです。本当に健康って何んとすばらしい事でございます。常に四人で旅行にも出かけます。皆若い息子夫婦と仲よく暮して居ります。

最近テレビでよくお目にかゝる、キン様、ギン様の様な老人でありたいと思います。みんなそろって三二六才、今なお健康に感謝しながら、がんばって暮して居ります。

健康と生きがい

七期生文芸科 小寺 海蔵

年老いての願いは、健康でありたい、そして生きがいのある

生活をしたいと云う事である。

この事について、次の三つの事を大切にしていきたい。

(1) 長年培ってきたゲートボールに、精を出していきたい。ゲートボールは、高令者にとって最適のスポーツであり、技量の練磨と共に頭の体操にもなる。

(2) 歩くことの効用

毎日三十分でもよい。出来るだけ坂道を選んで、歩くことの効用をたかめたい。

(3) 老大同窓会の集いを大切にしたい。気心の通じ合った友との、久しぶりの歓談は、また楽しい。

随 想

七期生文芸科 篠原五十良

軽いキータッチ、それが和文も英文も思いのまま、書き、印刷、文書化する。まさにコンピュータ応用システム、タイプライターである。さらに機能は推考、添削、保存等々プリンターフルであり、いまや職域のみか学生までも、不可欠の知的生産手段となりつつあるというのがうなずける。私のワープロとのつき合いは三年、地元自治会事務の必要にはじまり、デレックタントながら爾来おおいに恩恵に浴している。ともあれワープロ

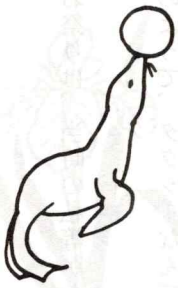
口は、いま私に生きる喜びを与えてくれるもののひとつに間違
いはない。

短歌 金の浮雲

七期生文芸科 寺田 光

陽ははまだ山の向うにあるらしく山の端にかかる金の浮雲
西空を茜と淡きコバルトに染め分け長等の山に陽は没る
汚れなき汀にせんと空缶を拾いて行けばゆりかもめ飛ぶ
裸木となりし桜を見上ぐればほほに溶けたる風花の舞
陽の射せるなだりに早もたんぽぽは黄色眩しく春招きおり
四十八の最後の滝を見残して降る赤目のごごしき石段
布引の滝壺に消えし黄の落葉シャッターチャンチ逃がす人混
赤目の土つけて盛りあるしめじには

今朝採りの札松葉をはさむ
枯葉抱くしめじに相応わぬビニールの
籠に馴れたる客の足取り



ガンダーラ仏見学

八期生園芸科 三瓶 泰助

鳥取県三朝町立美術館で国宝投入堂で、有名な古刹三徳山三
仏寺の秘仏ガンダーラ仏特別展を見学した。二、四世紀の菩薩
立像、釈迦誕生、ラマ教歓喜仏、ガネーシャ(象神) 歓喜天、
(聖王) 双身仏(歓喜仏) 象頭身二体抱擁立像は珍らしかった。
常設展示場には倉吉に在住する者が蒐集したガンダーラ仏約
四五〇点の展示で、その中の釈尊の一生、神々のルーツ、女神
のルーツ、鳥神のルーツ、仏像経典、仏具等のほか珍しいも
のが多数展示され興味深く拝観した。
三朝に行かれたら見学されてはいかがでしょうか。

望 郷

八期生園芸科 松本 しづ

神戸は六甲連山、神戸アルプス等を背に、白砂青松の須摩、
舞子の海、外国船の入港する神戸港を抱いている、とても静か
で異国情緒の漂う町でした。

三越から大丸迄の元ブラ、においのきつい南京町、ビルの並
ぶ海岸通り、ドラの鳴る港、山手にはモダンな外人住宅、映画

館の並ぶ新開地等々。

楠公、生田、長田、祇園さん等のお祭りは、当時の私等がたのしみに待ったものです。

市内を走るチンチン電車は、玩具のようで、タクシーなんてありませんでした。

今の神戸は変わりました。私は昔の神戸がとてもなつかしい。

国際貢献

八期生陶芸科 田辺 博

いま日本は、世界にどれだけの貢献ができるのかと、問われていますが庶民の一人としてはどうすればよいのか、まして高齢者においておやであります。さてこの時おこがましく誇示するつもりではありませんが、私が今日まで同志とともに続けて来たささやかな国際貢献について紹介させていただきます。

実は会報第七号に「善隣友好」と題しての私見が掲載され既にご承知かと思いますが……過去の恩讐を越え、アジア隣国の人々と手を携えようという集いのことです。今や世界は挙げて平和共存を指向しているとき、吾々としてできるささやかな平和への貢献でありますまいか。一昨年はソウルへ昨年は台北と、既に八年に亘って友好親善の交流を重ねて来ました。来

年は日本に各国の友を迎えることになっていきます。みなさん方のご参加を期待して已みません。因にこの集いに中川会長さん始め同窓生六十余人の方が参加下さり心強いかがりです。

掃海隊員の栄光

八期生文芸科 川瀬 兵吉

湾岸戦争停戦後、日本も漸く人的貢献をする事が出来た。今ペルシャ湾を航行する船舶と同時に日本経済航路の安全性を高める事が出来たことは、偏えに掃海隊五百十一名の皆さんに感謝し絶大なる賛辞を送りたい。

私も大戦中はビルマで終戦を迎え、戦時中米軍が敷設した沈底式磁気機雷を連合軍の命により掃海作業に従事した事がある。その作業中に運悪く二隻の掃海艇が磁気に感応して、突如大音響と共に木っ端微塵に吹き飛び水柱とともに多くの戦友が海の藻屑と消え、大変悲しい出来事があった。当時は現在と異なり優秀な掃海機具の装備も無く、海底の泥深く沈んでいる磁気機雷の掃海であって事故の後は、それこそ毎日がヒヤヒヤ・ビクビクの掃海作業であった事を回想する。

今回ペルシャ湾で活躍した掃海艇特質の木製四・五百屯程度

の小艦艇では、一つ間違えれば一瞬先は生命の保障はなく危険極まりない全く献身的掃海作業であり、また色々の悪条件を克服して全員無事栄光ある帰還をされた。誠にご苦労様でしたと申し上げたい。

思 い 出

九期生園芸科 森 時夫

昭和六十三年九月二十七日私は滋賀県老人大学を卒業しました。卒業後早や三年を経過しましたが、今は学校生活が懐しく思い出せます。

園芸担当の辻先生について色々な園芸を習いましたが、毎年正月前になると、先生の教えていただいた手順で「松竹梅」の寄植を造り自己満足をしているようなことです。

この様に寄植が出来るのも辻先生の実意ある御指導の賜と深く感謝しております。

辻先生どうか今後も益々御元気で御活躍下さることを心からお祈り申し上げます。

園友会について

十期生園芸科 平田 正善

園芸科卒業生三十一名が卒業と同時に、園友会の名を冠し毎年春秋二回の研修会を兼ね懇親会を開催し、親睦を深めお互いの健康を祝福合っています。平成三年度は春は中の島に於て、秋は大津市に於て開催いたしました。何れも参加人員は八〇%以上にて盛会を極めて居ります。大津市での研修会は大津市選定の名木、新唐崎の松、唐崎の松、倭神社のケヤキ、錦織のクスノ木及円満院のクスノ木の五本を鑑賞いたしました。予めテキストを準備して研修をいたしました。其の後参加者の半数以上が、創建の当時勤労奉仕をされました近江神宮に参拝いたしました。その後アヤハレークサイドホテルにて、懇親会を実施盛会裡に散会いたしました。平成四年度は、北陸温泉地にて一泊二日の親睦会を開催予定です。平均年齢七十六歳のクラス会も何時まで続くか楽しみです。

土に練込めて

十一期生陶芸科 久保 斉一

本居宣長は「古事記伝」に二六年。達磨大師は面壁九年。吾



人は手習い四年。手だれの境地には日暮れて未だ遠い。土を練
つての成形には思はず時の経つのも忘れるほど無我、没我の境
にはとても至らず。何とかいゝ作品を作つて人に誉めて貰いた
いなどと邪心が顔を覗かせる。とたんに動かす指先も自ずと頑
張る。そこでいっそひと思いに八萬四千の煩惱を土に練込め
る。そこになると反つて手指が軽やかになる。俗まず弛まず煩惱を
ぎっしりと土に封じこめた壺に釉薬で化粧をし窯の火で浄化して
出来上がったのが吾人の作品です。老大成果展に拙作を展示さ
せて戴き辱い。

老大に学んで

十一期生園芸科 岡見 恵介

二年間諸先生の貴重な講義をノートしたものを時に開いて当
時のことを想い出しています。又各地から集つた過去の職業の
異つた者と出合う機会が与えられ、交友を重ねることの出来た
こと、更に卒業後も同窓会や同期会でお互に健康を喜び合い、
語り合うことは楽しいものです。私達の在学中切望した専用校
舎建立のことも近く着工される運びになったと知り、心から喜
んで居ります。二年はあつという間に過ぎ、習いたいことは数
多く残っています。このため専修科か研究科を設けて希望する

者に更に一年学習の場を与えて下さることを願っています。

「すがやか会」の集い

十一期生園芸科 門馬 三郎

文芸十一期は卒業後も、二年間で培つた付き合いを大事に続
け様と「会」を作る。第一回の会合を平成三年一月二十八日に
大津地区が幹事役で、琵琶湖ホテルで行つた。会の名称は在学
中の我々の機関紙の名称であつた「すがやか」を用い、又機
紙も継続出版する事とし皆が俳句や随筆等を寄稿することとし
た。第二回は五月二十二日に湖南地区が主催で行つた。第三回
は甲賀地区により土山ダム、田村神社を散策した。其都度「す
がやか」は出版され会合の写真共に全員に送付している。ほぼ
八十%の参加で有るが二年間なんという事も無く共に学んだの
が大変良い立派な人間関係が出来ていて会はいつも和やかに談
笑し盃を交わしているのは嬉しい。しかし乍ら卒業後一年半に
なるが同期の中から既に三人の方が鬼籍に入られたのは哀しい。
これからも皆が元気で「すがやか会」の発展と会員の親交に努
めたい。

作 陶

十一期生陶芸科 中川 圭子

無心に土を捏ねて思う形を作り出し、素焼、本焼と自分の頭の中では完成していた作品を楽しみに、さて窯から出してきた現物を手にした時、考えていた作品とは思っても寄らない失敗作だったり、ひび割れしたりしている時は、本当に悔しい思いがします。やり始めて、四、五年の腕前では充分な作品が出来る筈がないのに、先輩達の作品とくらべ劣等感をいただきます。捨てるのも惜しくて、自作の壺に花を生けて見ると、思いの他信楽焼の素朴な色合に、の花が良く以合うこともあって案外捨てた物でも無いと、自画自賛しております。気持の苛立つ時、空しい日々など作陶していると、物言わぬ土の香りが私の心を慰めてくれます。これからも、先生の教えと、先輩達の作陶を盗み見しながら自分なりの作品を作るため努力します。思うままの形や色が出たら、どんなに素晴らしいことでしょう。老陶芸科にて、同じ趣味をもつ多くの友達を得たことが、それ以上私にとって素晴らしいことです。

花 芽

十一期生文芸科 松野 照子

俳句、俳画、茶道、とあわただしく暮す毎日。そんな中で、ふと気が付くと、花の絶えた庭にいつの間にか木々が小さな花芽をつけていた。彩りと言えば散り残った寒椿だけ、裸木ばかりが目立つ殺風景な我が家の庭で、けなげにも小さな芽が寒さに耐えて春を待っている。満開に咲き誇っていた花もやがて散り枯枝だけが残る。でもその内側でまた来る春にそなえ小さな炎を灯し続けているのだろう。年々冬は暖かくなりそのせいかどうか老人達はいつまでも若くて元氣だ。私も負けずに花の盛りを迎えたいものだと思ふ。

「花咲いて始めて気付く野菊かな」

生 き 甲 斐

十二期生園芸科 小野 次夫

生きがいと一口に云っても、人それぞれ価値観が違う。私は生きがいを見つげるため、いろんな事に取り組んでみようと思ふ。目的達成のためなら何にせよ、納得せずにおられぬ質、激動の二十世紀を懸命に生き抜き、よくぞ生き残れたものと思ふ。

二年間にわたり老人大学で学習しえた貴重な講義、実習を教訓とし、高齢者にできる範囲内で実行に移したいと念願しています。

今や「人生八十年、いや百年元気に生きて最後は一週間時代」「寝たきり老人になりたくない。働ける間は働く」のが大正人間の真骨頂であり、ボケないで長寿を迎える秘訣でもある。

楽焼親睦会

十二期生陶芸科 高野 喜六

落第せずにか卒業した。学友の親睦会を平成三年十一月中旬大津瀬田の喜六窯で開催、桶図（楽焼）窯の点火六時、（薪で本焼）窯出し、十四時作品学友十八点窯元四〇点の内第二回目の窯詰め作品に抹茶碗が破裂し、土片が散乱し不良品が多数焼上り、皆が思っていたような名品の窯出しが出来ず残念があった。その迷作を並べて、緑茶と茶菓で歓談に入り、初めて習得した手びねりの基本、小道具を使う成型、釉薬の採点、窯温度による焼成の相違等、中広く実績を重ねて得た個々の知識を交換し乍、作陶に精進することを確め合い、夕六時散会した。

積極的に生きるために

十二期生陶芸科 濱路 睦夫

高齢化社会に対しては施策を待つというよりも、自分からどう対応していくか、という積極的な姿勢がのぞまれるのではないだろうか。だれしも、なるべく人に世話をかけたくないと思っているが、それには、どうやって自分自身の健康を保持していくかが最大の問題であろう。そのために、朝は新聞を細かく読み、興味ある欄には特に印るし、一層関心を高めること、次は走るくこと、これは自分の体力に合せて走るくことが、手軽ですばらしい健康法だと思ひ、とりわけ老化を防ぐ一つの方法だと思ふ。又、足と脳との関係の深さについても考えてみたい。

短歌「雑詠」

十二期生文芸科 奥 正義

宿題の春という字の書き初めを孫に手を添え太太と書くわが庭をわがもの顔の鶉は他の小鳥を寄せつけずいる庭隅に雪の残れる日陰さえ春の息吹を内にひめおり四国路の祖谷の秘境は春うらら山の桜も谷の流れも

紫陽花の家ごとに咲く露地ありて妻と歩みゆく小雨降る朝
コスモスは薄き色もてゆらぎつつ過疎廃屋の軒下に咲く
帰りつき塀を曲れば木犀の匂いながれて心やすらぐ
家族らとわが征きし日に撮りし写真母のみ愁に沈めるごとし
訪ねきし鍵屋の辻に怨讐の武士の意地なるころ思ばん



昔は月夜に月白の露をみながら心算の算盤一本の算入を待つて居た。明けても暮れても此處に居ながらでもの防犯防衛の道は、昔ながらの道だ。今では、はたはりの道だ。

八上の子の老人はこれであつて居ます。

無趣味脱却ノ

湖沼と古里 小松 正

無趣味という一趣味に満足して居る。世を忍んだものの、揚てこれからの老年期を如何にして居るかと思ひ悩んで居た頃、老人の入院が済んだ。これだと思ふ。はじめの趣味の世界に、一歩のほのめ、なんでもかまはなうこの不文不白で、二十年の歳時を暮らすことかして居た。

以来抱つて居る。知らぬ間に過ぎ去つたが、その間物もせず、此の物を持ち去る。現今の生活は、趣味としての物を持ち、よう、よくもつたが、これだ。

無趣味なる脱却したる世の「無趣味」に感嘆して、今日も元

湖 南 支 部

表した生活を述べている。

古里の行事

五期生文藝科 林 秀一

立春を過ぎると、南北のそよでは、「おてない」と言う行事が行なはれる。字々に上げ、やり方には、少しの差はあるが、お祭りの準備を済ませ、朝から朝まで、大さけお祭りと山も取の木の枝に薪玉をつくり、神社にお供をする。一方、それお世話する家は、一生に一度長男が長女の嫁かな生後、お祭りに、当座を上げ受けして一年間お祭りに奉仕する。おてないさん、は酒は飲まぬ。お祭りは、生大機、当座の嫁女は、お祭りに身を寄す。行事への参加は出来ない。男子ばかりの行事である。お祭りは、お祭りに、子かお祭りに、受け継がれる行事が多い。何百年かお祭りが、お祭りに受け継がれる。

法蓮草（報連相）族に付いて

六期生文藝科 森 秀一

最近報連相族と云われる新用語ができた。又、報連相族は、

今日・この頃

一期生陶芸科 小松 正

月はおぼろに白魚の篝もかすむ春の宵。春一番の到来を待っています。明けても暮れても作陶三昧散歩がてらの図書館通い。週末は美術館手近なところから行き当りばったりの回遊、

八十三才の老人にはこれで充分満足しています。

「日々是好日」である。

無趣味脱却!

三期生陶芸科 嶋 鉄男

無趣味という「趣味」に満足して停年を迎えたものの、扱てこれからの老年期を如何にして過ごすべきかと想いなやんでいた頃、老大への入校に恵まれた。何か手に負えない、はじめての陶芸の世界に、一種のおののきと、なんとかなるだろうとの不安の中で、二年の課程を終ることができた。

以来拾有余年、知らぬ間に過ぎ去ったが、その間飽きもせず作陶を続けている昨今の生活は、趣味としての陶芸が、ようやく身についた感じすらする。

無趣味から脱却した天恵の「趣味」に感謝しつつ、今日も充

実した生活を続けている。

古里の行事

五期生文芸科 林 秀一

立春を過ぎると、湖北の字々では、「おこない」と言う神事が行なはれる。字々により、やり方には、少しの差はあるが、五穀豊穰を祈念する行事であろう。朝から餅をつき、大きい鏡餅と山毛桜の木の枝に繭玉をつくり、神社にお供えする。一方、それをお世話する家は、一生に一度長男か長女の健やかな生長を願い、当屋をお引受けして一年間お宮に奉仕する。「おこないさん」は酒は飲み放題、肴は、生大根、当屋の婦女は、親類に身を寄せ、行事への参加は出来ない。男子ばかりの行事である。田舎では、親から子へ、子から孫へ、受け継がれる行事が多い。何百年か訳分からずに、寸分違わず受け継がれる。

法蓮草（報連相）族に付いて

六期生園芸科 森元喜久蔵

最近報連相族と言われる新用語ができた。家族内で互に報告

する連絡する相談をする事がなくなり、年寄は若い者が、若い人は年寄は若い者が若い人は年寄の言う事はと話し合う事が少なくなっている。或る家庭で、有つ事であるが、日曜日家中がごたごたしているので息子に聞いても相手にせず近所の人が今日は結納が納まる日であるとの事で報告連絡相談がされなかったのである。或る有名旅館で女主人が従業員に賞与を渡す時に金封と法蓮草一束を付けて、報告連絡を特に注意してから客にサービスが良くなり大繁昌していると聞いている。

再び生涯教育

六期生文芸科 松永 武男

昨年生涯教育を述べたが息子が今の家を解体新築同居する事で一時南郷の長女宅に家内と二人住むことになり本格的に勉強するつもりが二階の狭い部屋に机も置けぬ様でそれに七月から家内が入院又病院と八月に新居で荷物の整理と一人暮しで時間もなく練習不足ながらもボールペンは八級に始まりやと三級の証書毛筆は八級やと受かったが人様に見せられる字でなく残念だが呆封じのためにも頭と体は動かすのが一番広訳文になったが初志の生涯教育の完追に邁進している今日此頃です。

近況

七期生園芸科 森口 敏男

老大同窓生の皆さんお元気ですか。私も定職が無くなってからケジメのないダラダラ暮しており、肉体的にも精神的にもよくないと思っております。最近は暮に没頭しております。それと婦人の仲間に入り水墨画を習い始めて二年目になります。

我が国も経済発展と共に豊かな社会となり、物は豊富につくられ、物のありがたさが軽視される社会、豊かな生活に感謝せねばなりません。老人会の役員をしておりますが、人間の心というもののは複雑微妙で細々なことでもトラブル起しうまいかないことがあります。

働きと生きがい

五期生園芸科 大西 憲司

働くことは、端の人を楽にするといいますが、人に役立つことをする働きであっても、必ずしも報酬を得るものばかりではありません。もちろん働きには報酬を伴うものですが、報酬を

伴わない働きの、自己実現の喜び、社会的連帯の喜びがあります。例えば、趣味に打ち込むことも働きとして、自分は楽しいが、自己満足だけでもうひとつ、生きがいとして生き生きしたものにはならない。端に働きかけて楽をさせることは、端を喜ばせることとなる。人の喜びが自己の喜びにはね返ってきた時に本当の生きがいが生れるものであると思います。

元気で生きています

六期生陶芸科 大八木正治

私は今年男性の平均寿命を超えて傘寿を迎えることができ、から喜んでおります。

然し振り返ってみますと、旧知の人の数が大変減ってきたことや、関係する各種団体の機関紙の訃報欄などに定年退職されて日の浅い人が意外に多くみられることに、天命か又は本人の日頃の不摂生によるものか何か割り切れない感じがします。

余命が何年あるかわかりませんが、衣食住の生活リズムを崩すことなく、一日一日を朗かに、人を疑うことなく、奉仕の精神、探究の心をもって生涯学習をすゝめてゆきたいと思っております。

心新たに一年の出発を

十二期生陶芸科 堀 八重子

新たな年を迎えまた一つ年をとるのは自然の摂理ですが、心身共若々しく過したいと願うのは誰人もの願いでしょう。その秘訣は感謝の心を忘れない事だと思えます。何事も不満に思っていない心はわびしいものです。愚痴を云うのも感謝ととってゆくのも自分である。めそめそして下を向いて生きるより頭を上げて生き生きとした心身こそ幸福であると思えます。そして一年一年を前向きにとりくみながらの人生でありたいと思えます。一生空しく過して万歳悔ゆること勿れ空しく過して万年に悔いることなく一日一日を充実した日々としてゆきたい。

老を卒業して

十二期生生活科 中井喜代子

六十五才頃から六年間病気がちで入退院の繰返し、やっと健康を取り戻し、老人大学に入学を許可され喜んで入学式に行き名簿頂いたら生年月日順に書かれてある。生活科学科では私がトップ、若い人ばかりの中に交っていきるか一瞬心配したが机を並べて講義を聞き、昼食後は若き日の学生のようにしゃ

いなり話合っている。皆親切で良い人に囲まれての二年間「あっ」と云う間にすぎ卒業。卒業後高島の自衛隊の見学、親睦旅行、クラス会には恩師を迎えて貼絵教室等々、老主に学ばしてもらって本当に有意義な二年間であったと感謝している。合掌

追 憶

十二期生生活科 大坂 綾子

図らずも入学し老大の生徒となった。連想からでしょうか、さし日乙女の頃の学園生活など思い出し、懐旧の念を抱きつつ通学した日々も今思えばつかの間、卒業してはや数ヶ月がたちました。通学するにはいろいろありましたが、それは懐かしい思い出としていつまでも心に残ると思います。在学中諸先生の御教導により新知識や一般社会など、巾広く恵まれ有益な学園生活を送ることの出来ましたことを喜んでおります。今後は学んだことを趣味等とあわせ、尚在学中の知友との友情を大切に良き生涯となる様心掛けて行きたいとおもっております。



しなやかに

十二期生文芸科 三田村五郎

楽しい思い出が一パイの老人大学での二年間は、私を若々しく心を豊かにしていただいた。

卒業してからの半年間はあっという間に過ぎてしまい、思い出の糸をたぐりながら昨日のように懐かしく、ありがたく思っている。

私は今年七十八才を迎える。お蔭で夫婦共々健康に恵まれて天気がよければ午前中は若い人と共にグラウンドゴルフで歩きまわり、午後は地元の皆さんと共にゲートボールにと楽しみながら専ら心身の健康保持につとめている。これからも常に「積極的に」をモットーに、しなやかに心豊かに生きたいと希っている。

老いを考える

十二期生文芸科 池長 英子

先頃テレビで百歳のおばあさんがダスキンのコマーシャルに出ていた。私は尊敬の気持で見入ってしまった。老人大学校で老いという事を色々な角度からおそわって一応理解と覚悟

は出来たものの美しく老いるという事は肉体面と精神面の健康な状態が永く永く続くという事だと思ふ。現在余りにも不健康な日々を送っている人が多い。嫁と姑の問題、親子関係、老年の孤独、病氣等。油断は禁物である。そこで私は一人で考えるのだが神仏とつきあって生きてゆかねば、とうてい美しく老いる事は出来な思っている。手を合して感謝しひたすら祈るのであると思つてゐる。

老ク活動の限界

八期生園芸科 中村 利夫

高齢化対策が重要な施策となり、全老連・県老連の地方老連、単位クラブに対する要請も多彩となつて来ております。

これを実践する側のわれわれは、現在でも一家の働き手として、田・畑に又は家事にと重要な役割を担つております。このことがクラブへの加入、役員就任を困難にしており、又行事を進めるに当つての限界を感じております。従つて老人クラブを表面に打ち出す活動は逆に孤立化のおそれがありますので、地域で進めている行事や趣味の集りなどに積極的に参加する形で

地道に進めてゆく方がよいのではないかと思つております。

庭園をめぐる

八期生園芸科 伊藤 文江

満七十才を迎えた一月末日、京都の離宮へと足を運びました。桂離宮は、平安王朝時盛んであつた茶道の趣味を、実現した幾つかの茶室建築は、香り高いものであります。又東北部の叡山々麓に、修学院離宮へと、豪華絢爛な色彩建築と、対照的な素材を活用した簡素な造型によつて創建されたことには驚きました。桂離宮と同様に煎茶三店式の中国的な文人好みがかがえ、数多い借景の庭の中でも特に巧みな地形により比類のない規模と、素晴らしい展望は抜群でありました。

会員のみな様も是非参観されては如何でしょうか。



年頭の所感

十期生園芸科 村上 豊

(イ) 「苦労はむくわれた」

私達の世代は、貧苦に耐えて働いてきました。その結果、これまでの勤勉が実を結び、予想以上の繁栄を築き、世界中から頼りにされるまでに発展しました。また、世界一の長寿国となつたのも教育の成果で、全国民の苦労の結晶といえます。

(ロ) 「よりよく生きる心構え」

人間の望みはどんどん高くなり、便利快適なものは増え、その反面、古くさいありふれたものはしだいに減っていきます。変化することで世の中が進歩するのですから、善くするための変化は前向きに受けとめ、生きてゆきたいと思っています。

ひとり遊びぞう

七期生文芸科 森野 三郎

時間を忘れ、空間を意識しない次元の暮しは望むべくもないと思いつつ、今日も無事で過ぎたなあと、老人クラブ等の小使い走りの明け暮れです。長と名のつくもの公私大小六つ、団体役員五つ、無報酬の無頼漢。身辺孫三人、古文書研、詩吟、囲

碁、読書、カルチャーセミナーや気儘な旅、社寺の総代等々で人との出会い、自然との触れあいで、心を耕す感動の味わい。時には田畑を耕す汗の幸せ感、山あり、野あり、さすらいの旅路は果てしなく続きます。

「世の中に交らぬ徒にはあらねども、ひとり遊びぞこれにまされる」良寛さんをこよなく慕います。

人生の思出

三期生生活科 北野 春子

一口に人生八十年と申しますが、長い様であります。振り返って見て私達の人生の出発が支那事変、つづいて戦争で子育て時代どうして暮して行くのかと心配して今日を送って来ました。主人も二年間戦地に行った。後は私の責任と申しますのか四人の子供をかかえてこん苦勞をして居る私が長生させてもらえると思わなかったのに、いかされたよろこびを思う時、ありがたく手をあわさずには居られません。老人大学校のおかげで県内各地にお友達が出来て大学校の先生方の教えのおかげ様で社会勉強もたのしく、手芸も出来るしボランティアの奉仕もさせてもらっています。

今の日本をみつめて

六期生生活科 富田もとよ

世の中は一世紀程経った気持がする。その間社会は目まぐるしく変遷してきた。私の住む野洲町も開発が進み久野部はほとんど市街化区域で宅地化されつつ景観が一変しつつある。それ等を見守りながら、年はずっとも年寄りな様に留意しつつも仕事に生き甲斐を感じて働く。恩給もスライド制となり感謝の生活激動する社会の情勢に適応すべく年老いたいといえども希望を持って働いている。常に精神的に若々しくつとめている。いつまでも若くありたい。

毎日を大切に

十二期生陶芸科 田村 進

昨年九月感激裡に老を卒業し早や半年間が過ぎました。在学中は授業計画に基づいて多少の拘束感を抱きつつも、これを中心に毎日の生活に一定のリズムと弾みを得られたことは、本当に幸いでした。

卒業後はこの経験を大切に、張りのある毎日を過ごしたいと考えているものの、つい横着な自我に負けて、悔やまれる日々

となってしまう。この反省もあり平成四年は大きめの日めくりカレンダーを手に入れ、毎日一枚ずつめくりながら、今日の反省と明日への期待を持って毎日を大切に有意義に残りの人生を送りたいと考えております。

ペタンクに生きる

七期生園芸科 辻川 信一

ペタンクの勧め ペタンクを始めてから五年目になります。何時でも何所でも誰とでも出来て、それにルールも優しいのでとても面白いゲームです。一昨年秋の全国健康福祉祭びわ湖大会では滋賀県チームが見事優勝を果したので一躍注目を浴びましたが、未だ未だ日が浅いので県下でも知らない人も多いので、県ペタンク連盟では何時でも何所へでも出掛けますのでご遠慮なくお申し出下さい。



沖繩紀行

十二期生スポレク科 岩崎十四夫

二年間の学習も夢の如くに過ぎ去った。近江の古代文化歴史等の講座が生涯学習に導いて戴いた。だが、矢張スポ・レク学科の世界、各国のフォークダンス、民謡、踊、体操、総て音楽の曲の流れに乗った学習が脳の活性化に役立った。

草川・吉川両先生の緻密な計画で沖繩での研修が生涯忘れ得ぬ輝かしい行事だった。那覇空港の“滋賀老大大歓迎”の横断幕の感激!! 具志川・石川両市老連の方々盛大な交流会。二年間習った科目の発表会、温い手に伝わる沖繩婦人のパートナーとしてのフォークダンス、生涯忘れられない。



高齢者を越えて

四期生調査科 島田富治部

私も同男性の平均寿命をクリアして、女性の平均寿命を突
きる。喜ぶを過ぎた一九八四。一。 滋賀県主催人生八〇年私
はこう生きるに提言した一人と。 甲西町の四季朝も暮され
た散策アウトラムとして、命を惜む。 命を惜むは夫々
い、 命のことも異なるが、私は可能。 夫々で字んた基礎と倫
理を主が本件論に加えて古文書。 俳諧、 氏神の責任役員
を通じ、 地域は会への開けを。 甲西の生甲斐や補佐の在
左を探り、 更に往年より続いている。 自動車運転やゴルフを通
じ、 老人の頭の退化、 四肢の衰。 ストレス解消に多忙な
日々を続けるよう努めて行こう。

ゲートボール

五期生調査科 山崎 義一

部 支 賀 甲

今日もまた、ゲートボールの練習の中で小問があつた。勝
負を争うスポーツなのでお互いに意見の相違を来すのは当然の
事である。 氏さんは長らく町や部落の老人会長を歴て来られ全
の運営に色々工夫をして来られた方で、勝負けは無論肝心で

あるしルールもゆるがせに出来ない。

まじみの一つである。 夫々に対し審判の氏さん、 シームは飽
くまでも勝負を争うもので、 シームは金科王様と言うべきもの
である。 少しの妥協も許されない。 之れが為めに体力の増進が
あり、 老人の頭の体操があり、 命の運命がある。 聞いているわ
たし、 老人会あつてのゲートボール、 ゲートボールあつての老
人会、 鬼に負かす。

近 況

七期生調査科 貞藤 光徳

老人を卒業して六年目を迎へ、 その係引続と表水任の御至教
室に遠いながら、 甲西町でも陶芸教室が出来て、 老人ＯＢが指
導に当たっています。

又老人ＯＢ全も七陶会、 七期生、 老人甲賀支部など科を越え
た行事に楽しく参加しております。

趣味の詩吟も多くの方々と練習しておりますが、 教えることゆ
うことは大変自分自身の勉強になります。

甲西町の文化財ガイド養成講習会を受講して、 四月からガイ
ドが募集する予定です。

これからは健康に留意して、 遠香で水まをしたいと、 毎日

喜寿を超えて

四期生陶芸科 島田寅治郎

兎も角男性の平均寿命をクリアして、女性の平均寿命えと突走る。喜寿を過ぎた一九八四。一一。滋賀県主催人生八〇年私はこう生きるに提言した一人として、第四の四半期こそ残された最終ラウンドとして、命を燃し続けている。生き様は夫々違い、過し方も異なるが、私は可能な限り老年で学んだ基礎と陶芸を生かす作陶に加えて古文書の解読や俳諧、氏神の責任役員を通じ、地域社会への関わりを深め高齢者の生甲斐や福祉の在方を探り、更に長年やり続けている、自動車運転やゴルフを通じ、老人の脳の退化、四肢の衰え防止とストレス解消に多忙な日々を続けるよう努めて行こうと思う。

ゲートボール

五期生文芸科 山脇 義一

今日もまた、ゲートボールの練習の中で小問答があった。勝負を争うスポーツなのでお互いに意見の相意を来すのは当然の事である。Kさんは長らく町や部落の老人会長を経て来られ会の運営に色々苦勞をして来られた方で、勝ち負けは無論肝心で

あるしルールもゆるがせに出来ない。

楽しみの一つである。と是に対し審判のMさん、ゲームは飽くまでも勝負を争うもので、ルールは金科玉条と言うべきものである。少しの妥協も許されない。之れが為めに体力の増進があり、老人の頭の体操があり、会の進歩がある。聞いているわたし、老人会あつてのゲートボール。ゲートボールあつての老人会。兎に角楽しい。

近況

七期生陶芸科 真鍋 光徳

老大有卒業して六年目を迎え、その後引き続き碧水荘の陶芸教室に通いながら、甲西町でも陶芸教室が出来て、老大OBが指導に当たっています。

又老大OB会も七陶会、七期会、老大甲賀支部など科を越えた行事に楽しく参加しております。

趣味の詩吟も近くの方々と練習しておりますが、教えるとうことは大変自分自身の勉強になります。

甲西町の文化財ガイド養成講習会を受講して、四月からガイドが発足する予定です。

これからは健康に留意して、達者で永生きをしたいと、毎日

体操をしたり、歩いたりしております。

五〇年をかえり見て

十期生園芸科 奥村 正次

真珠湾に戦火の火蓋が切られて、早や五〇年。連戦連勝もつかの間、あらゆる物資が不足し、食糧が不足し、農業をしながら御飯も腹一杯食べられなかった事を思い出します。

上空にはB二九が飛び、重要施設を猛爆撃を受け敗戦となりました。過ぎる事四十五年、国民は生きるため昼夜の別なくお互に働き続けました。我々青春時代は本当にさんざんでした。私も終戦後復員致しました。毎年敗戦記念日に成ると苦しかった事、又ひもじかった事等々を思い出します。あの様な悲惨だった事、二度と戦争を起さない様、子孫に伝え、世界平和である様念願するものであります。

感づるままに

八期生文芸科 植西 敏子

最近お仏壇の修復に際し、内部の整理をさせて頂き、先祖の

残しおき下さった数々の筆あとに触れ、今更乍らその信仰心の厚かったことを知らされ、感嘆あるのみです。明治初期の写し書きより窺うに、只管お念仏生活の明暮れの様子が偲ばれます。京都の御本山詣りは申すに及ばず、遠近の寺院への参詣で、有難い御法話を聴聞されたのでしょうか。嘆異妙の一部写しをはじめ、それぞれ法話の見聞録、聴聞記、各種の「カタログ」、安心いろは歌、法の句、歌などなど。

折にふれ拝読さしてもらい先人の御苦勞を偲びつつ、心新たに精進をと念じる今日此の頃です。

福祉陶芸教室の現状

五期生陶芸科 福島清太郎

甲西町老ク連では、会員の生き甲斐対策事業として、老人福祉センターに窯を設置し陶芸教室を開いている。平成元年より始め、広く町内の同好者を募り、現在六十名の同好生を三班に分け、老陶芸科OBの寺田時三、赤瀬川イチエ、真鍋光徳、千代倉太郎、大北忠一、小笠原武夫、山田豊蔵の各諸氏が指導者となり、月六回教室を開き陶技を磨いている。文化祭には全員が力作を出品、好評を得ている。「最近甲西町の身体障害者施設さつき共同作業所」に陶芸用窯が設置されたのに伴ない、

作陶指導と、障害児との交流などの態勢を整えるよう準備を進めて居ります。

傘寿を迎えて思う事

八期生陶芸科 千代倉太郎

金婚式も過ぎ早本年八十歳を元気に迎え、家族親族の者達に盛大に祝って戴く事が出来ました。曾孫も新春に私宅に来て可愛い笑顔を見せて呉れました。思っで見れば本当に幸せ者です。と云って私はそんなに老人だとは思って居りません。御寺の総代、地区の区長、OB会の会長、老大甲賀支部の副支部長、又老大で身に付けた作陶の技を甲西町の陶芸教室で指導者として生徒に教えて居ります。毎日元気に動いて居ります。又余暇には老人クラブの皆さんと共にゲートボールに運動と親睦に勤めて居ります。

後幾年続くか解らないが、社会の為に成る事なら一生懸命勤めたいと思う。



十期生園芸科 園芸科 藤井 浩夫

豊かな生活を送るために、生甲斐をもつ事が大切だと語られています。その生甲斐とは仕事を誇り、社会の貢献をしていると語つ意識が中核になると、生甲斐は、又別に多くの趣味を持つて楽しむと交友を多くする事、同時に笑顔と前向きな心、この三つを兼ねていく親切にする言動でしよう。老人で過去のソングを学んで現在はこの音楽をいかに市民館の練習教室でくりの手ほどきを教えるが、生甲斐も松竹輪の寄世情入遊りを学習しました。六つ名もの、加えて素晴らしい優美な自然を表現した老人の作品が出来ました。生甲斐も楽しく遊べました。花は人と人を見えななく、心なごませ、美しさを感ずる心を教える生きる喜び、心なごませ、この喜びの輪を広げ、健康で幸に生かす、生甲斐の心なごませ、この喜びを及ぼしたのど希望しています。

湖 東 支 部



十期生園芸科 園芸科 藤井 浩夫

私共の町会下町会には昔中仙道の宿場町として足利尊氏等多くの著名人が宿泊して賑わったと云われて居り、今でも本陣跡本陣等の屋号の家が残っています。特に桑原が白木屋に宿泊前寮を築いて鳥帽子を首に冠した事は有名で、越前社の境内入口に鳥帽子屋敷があり水を汲んだと云う元服池が今でも清い水を湧出しています。その他兼山西光寺跡には国宝宝篋印塔や屋敷が尚残し等の史蹟が多くあり、又鏡山を題材とする歌も沢山あります。それ等を保存伝承する事を目的に有志で史蹟の史蹟保存会を作り、史蹟保存会等を行ない大事に守って行く構想があります。

七掛け人生

十期生園芸科 古林菜子

皆さん「七掛け人生」と云う言葉をご存じでしょうか。今七十歳の人はその七掛けの四十九歳。つまり、今の七十歳の人には人生五十年時代の四十九歳に匹敵するのです。何と云いではありませんか。まだまだ現世を楽しみ、おしゃべりを楽しんで

ゆとりの時代

八期生園芸科 溝井 常夫

豊かな老後を送るために、生甲斐をもつ事が大切だと言われています。その生甲斐とは仕事を持って社会の為貢献していると言う意識が生れると楽しい生活が出来、又別に多くの趣味を持って楽しみと交友を多くする事と思われまます。「明るい気持で何時も笑顔と朗らかに」この言葉こそ周囲を明るく親切にする言葉でしょう。老大で園芸のノウハウを学んで現在はこの経験をかき町公民館の園芸教室、老ク連寿大学で高齢者に花づくりの手ほどきを教える昨今です。昨年末も松竹梅の寄せ植え造りを学習しました。六〇名もの参加者素晴らしい優美な自然を表現した各人の作品が出来上り、新年を明るく楽しく迎えられました。花は人と人を見えない糸で温く結び、心をなごませ美しく素直な心を教え生きる喜びを与えてくれます。この喜びの輪を広げ健康で幸に生き、社会に対するご恩返しのため微力を尽したいと希しています。



史蹟保存会

十期生園芸科 園田九二男

私共の町童王町鏡は昔中仙道の宿場町として足利尊氏等多くの有名人が宿泊して賑わったと云われて居り、今でも本陣脇本陣等の屋号の家が残っています。特に義経が白木屋に宿泊前髪を落飾して烏帽子を着し元服した事は有名で、鏡神社の境内入口に烏帽子掛松があり水を汲んだと云う元服池が今でも清い水を湧出しています。その他鏡山西光寺跡には国宝宝篋印塔や星が崎城址等の史蹟が多くあり、又鏡山を題材とする古歌も沢山あります。それ等を保存伝承する事を目的に有志で鏡の里保存会を作り清掃作業や研修会等を行ない大事に守って行く様務めています。

七掛け人生

十期生園芸科 古株榮三郎

皆さん「七掛人生」と云う言葉をご存じでしょうか。今七十歳の人はその七掛けの四十九歳。つまり、今の七十歳の人には人生五十年時代の四十九歳に匹敵するのです。何と若いではありませんか。まだまだ異性を感じ、おしゃれを楽しんで

も決しておかしい年齢ではありません。色気を忘れず朗人となり、余勢をいかして、長い人生経験により身につけたものを、少しでも社会のお役にたつよう還元しようではありませんか。

(これも老人大学で学んだことです。)

『思いのまま』

十一期生園芸科 田井中 宏

「霜もなく、又雪もなく、火事もなく、銭さえあればよい年の暮れ」二百年前の狂歌だが、なるほどと思われる。年金生活をしているとボーナスもなく、この歌が一層感深い。

しかし、中国の受験勉強をすすめることばに「金持ちになる良田は買う必要はない。本の中から自然に千石の米が出てくる」とある。これは老人にとって、考えさせられることばである。

老人は年をとってしおれる人が十人中九人までで、本当の老人になるのは十人の中で一人だそうだが、暇はあるのだから、盆栽を手入れたり、本を読んだりして、よき老人になりたい。



愚 感

十期生陶芸科 脇 忠蔵

会員の皆様輝かしい平成四年の新春を益々御荘健にお迎えの事と存じお慶び申し上げます。

縁あって此の世に生を受け諸る諸るの恵に育てられ七三回目誕生日を健かに迎えられた事を喜び感謝しております。老入入学式に地域社会に於いて指導者として活躍出来る様勉強して下さいとの挨拶を受け未知の陶芸科に席を置き、物を作る楽しみを教えられ、又新しい友を多く得た事を喜び感謝しております。これからは今日迄受けた種々の恵に対し万分の一でもお返し出来る様、地域社会福祉のお役に立つ様努力して行く心掛けです。

会員皆様方の御健康と幸多き事を念じます。

私の近況

九期生生活科 神山 やを

一昨年の夏、急死された遺族会長の後任に、七十歳の坂を越え、健康に自信のない私が、どんなに云って下さってもお断りし続けて参りましたが、最後は戦死した夫の仏前と息子に頼ま

れどうにもならなくなり、前任者の任期間を微力ながら、責任を果たす事になりました。

今年は早速、県の遺族運動会が神崎で行われ能登川町々民グランドで開催されますので、大会に向けて町当局にお願いに上ったり、今からその根廻しに追われています。早く自由な身になって老大の級友のお招きに報ゆるべく出席できる日を楽しみにしている今日この頃です。

近 詠 十 首

六期生文芸科 野沢 政次

遠くつづく青田に風の筋見えて威し銃の音峽にひびかふ

老いの斑また一つ増す顔写し勤めなき身の朝の髭剃る

(蒲生町野口謙蔵記念館二首)

喜雨来ると踊る農夫らを描きたる小品が四十二の絶筆となる

暑い中ご苦労さまと館の媼は謙蔵画集を渡して辞儀す

(五個荘町外村繁生家二首)

門川を導き入れし水澄みて川戸に秋の日差あそべる

赤松に向く小座敷の小机に表紙褪せたる「鶉の物語」

馬籠なる越後屋に残る日野商人定宿の看板身に泌みて撫づ

木曾杉の秀をバスツァーの窓に見て「夜明け前」の前章思ひ

てゐたり

砥石わが手癖のさまにすり減りて老いの日課となりし草刈る

入退院繰り返しゐる友の来て一日生きたるよろこびを言ふ

「冬 の 月」

七期生文芸科 西崎 稜猷

境界の掃き目を正す親鸞忌

後夜果てて沈の香漂ふ報恩講

華足餅崩れ気になるおとりこし

晩秋の暁聞つきて大太鼓

玉砂利の露踏み行きて朝の鐘

法中の抱え語らふ丸火鉢

短夜の看とりはかなく君逝けり

君逝きて様変りたる梅雨の寺

梅雨の雲暗く早やまり君逝きぬ

去来する雲に動ぜず山眠る

森然と白無垢粧ほひ山眠る

七彩の夢に微睡み山眠る

柚子風呂や遥きむかしの祖母憶ふ

土蔵の壁大きく割れて柚子実る

柚子の香の膳にひろごり食進む

我が影の丸味を映す冬の月

この頃思うこと

八期生文芸科 田口 敏之

老大を卒業して、もう五年を経過して平成四年を迎えた。

彼の湾岸戦争が終りソ連邦が解体して、東西の冷戦が終結し
国際平和の新時代を迎えた。

日本でも、PKO・米・自動車の問題が国際化し解決を迫ら

れる苦悩の新年に突入した。

二〇二〇年には、国民の四人のうち一人が六十五歳以上の老人
と言う超高齢化社会へと確実に向いつつある。

国の閣議にて、第六次空港整備計画が採択され、滋賀県に、
「びわこ空港」建設が予定事業として組み入れられた。

この空港は、我が住める日野の団地の直ぐの隣地に位置し、
ターミナル其他臨空施設・道路等の建設のため住宅の一部立
退き問題も浮上し、その施設構想が今年は県より明確に表示さ
れる予定である。

叙上のごとき国際的にも、国内的にも、将又地域に於ても複
雑多岐なる環境の中に在住してつくづく思うものである。

我々老人は、誰でも老衰し、病氣や怪我などで心身に障害を
持つこととなったり、不幸にして配偶者に先立られ独り暮しの
老人となり、遂には寝たきり老人となって仕舞うこともある。

福祉法の改正にて、平成五年四月一日よりは老人、心身障害
者児、施設収容等に関する国の措置権が、大幅に市町村に移譲
され、在宅介護の福祉施策が充実強化されると謂われている。

我々老人は、その余命を各人毎の気力や体力に応じて、各種
の趣味文化活動・スポーツ精進等に自発的に参加することを生
き甲斐とすることは結構なる事と思うが、更に、健康で心豊か
な明るい街づくりのため地域社会に積極的に溶け込み、若い者
や婦人の方、子ども達とも一緒になって楽しい交流の輪を広げ

ると共に、相互扶助の精神を培いたいものである。

また、老人の多年の経験を生かして、その資質技能を活用して、国家社会をも支えて行くまで考えて行くべきであることを痛感するものである。

呆け防止

八期生文芸科 美園 寛子

七十一才、何とか呆け老人にはなりたくない、指先を動かすのがよい、頭を使うのがよいと言われ、俳画、書道、短歌と深く極めることもなく端をかじって楽しんでる。また油絵が書きたくて、昨年の暮通信講座に入会した。セットにして送ってきた道具の名前も書き方も何も知らない、零からの出発。油絵は失敗しても上へ上へと色の重ねられるのが楽しくて通信教育と言うより、自分の好き勝手に書きはじめた。この頃はただ夢中、どこまで続くやら？ 呆け防止の足しになるかならないか、それはわからない。とに角楽しいのだからそれでいい。私の心中ただ今晴、飛切り快晴です。

命ある今の喜び

九期生文芸科 田井中元一

昨年の今頃は体の調子が悪く成人病センターのお世話になっていた。先生方のお蔭で帰ることが出来て、丸一年となり健康体の有難さがつくづく感じられる。毎日の様に各施設に収容されない様自分で動くことの出来る間は頑張りたいたいもの。

与へられた仕事が思う様に出来るのが一番幸せではないでしょうか。今この命を戴いて生かされていることに気づかされ、喜びたいものです。

思わぬ災い

十期生文芸科 横山久太郎

お蔭様で歯は健全で親よりいただいたそのままです。平成二年秋高齢者（満七十才以上）よい歯のコンクールに滋賀県医師会より表彰を頂きまして健康には自信がありました。処が昨年六月突然歯槽膿漏を患い歯科医の紹介で甲賀病院へ入院早速全身麻酔で手術を受け一ヶ月の入院生活は苦しい病者の経験を致しまして平素健康でありし有難さが身にしみました。

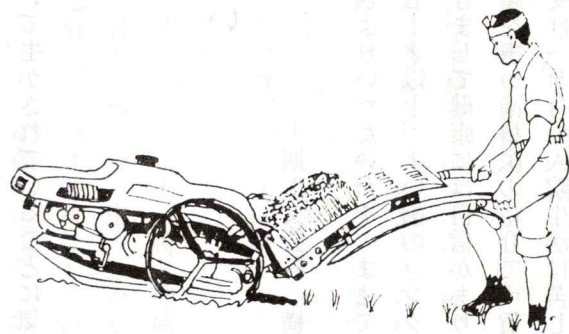
療養中大勢の人との出逢いで人の情に心ひかされ余生は衆生の御恩に報いて災いを福に転じる様にと念じます昨今でございませう。

合掌

冠句を楽しむ

十一期生文芸科 寺本 寿子

冠句は五七五の詩型で形成されているが、最初の五文字が冠題として固定されている為一見窮屈そうに感じられます。然し何の約束もなく冠題を傘としてあらゆる分野から湧き出す詩的な着想を付け句し詩に纏め上げることが、創造の楽しみがかり立てられるという妙味奥深さが秘められています。大句会では三四十人の宗匠が選句され各々一巻に収録されます。同じ一つの句でも選外にもなれば又自分の作句意識に同調し共鳴されれば美巻の栄に浴す事もあり「捨てる神あれば拾う神あり。」という事でそこに楽しさ面白さがあり冠句の虜になる所以です。



朝日の名号

一期生園芸科 前出 馬吉

昔弘法大師が長命寺に参詣に成り、途中中之庄の天ノ御中主神社の北東三百米位の処に休まれ畳三枚程もある大岩を発見された。南面して四十五度傾斜の角度に思いつかれ南無阿弥陀仏を彫られた名号は太陽の斜光を浴びて日が登る頃には文字が現われる不思議が生れた。土地の者は大師の偉大なお徳を慕いて信仰を休まなかったが、今は岩も風化し苔も満ちて名号も分らない程にもなった。道路も変更なって、皆んな忘れ去る遺跡になるを惜しみます。

「ボケてたまるか」

四期生陶芸科 岡田英多良

二昔ほど前になるうか、森繁久弥のような俳優であり声優、俳句、随筆から社会評論もこなす徳川夢声という今で言えばスーパータレントがいた。癌と中風だけには罹りたくないとの心根から、含宙軒夢声と名乗っていたのであるが、癌と痴呆老人の急増で、存命していたら差詰め「含呆軒」と名乗ったかも。

京都堀川病院でボケ老人の治療に取り組んでおられる早川医

師の講演で「あわてない、かくさない、おこらない」と介護の三原則を老大で聞いた記憶がある。NHKテレビで電話相談、「老人介護」を聞いたが、在宅介護のご苦労には唯々身のつまる思いがした。六十一年「長寿社会県民海外調査団」の一員として、西ドイツ、スウェーデン、イギリスの福祉先進三ヶ国を訪ね、特に整備が進んでいる医療と介護を融合させたような諸施設を視察したのであるが、要は「ボケて悪いか」と言える社会「ボケたくなるような福祉が充実した社会」は、甥の貴花田の優賞で二子山理事長が言った「夢の、夢のまた夢」であろうか。痴呆性老人の衝撃的増加を考えると、その一人一人の老人には何十年もの過去の生活の重さがあるはずである。人間としての尊厳を痴呆性老人に保障する社会、安心してボケられる社会、その社会をどう作るか。明日を思うと人ごとではないのである。

考へ方の切り換え

六期生園芸科 中田 重一

平成四年の新年を迎え、県老大同窓会の発展を祈ります。老年期と言うものは、希望の持てる、生きがいある第三の人生にする事も可能なのである。

責任のある職業から解放され、余暇が充分にとれ、やり度い事が自由に出来て、趣味の生活を送る事が出来る楽しい時期でもある。

又自由な時間がたっぷり取れる様になった楽しい時期なので。この第三の時期をどの様に過ごすかが、孤独や淋しさを克服する上で、大変に大切な事などである。

襟正す余生

七期生文芸科 辻 正一

本年は申歳であり、我等人間は所詮、猿と同種の動物であったと言ひ伝えられる。猿より勝っている点とは、三本の毛「け」が多かった事だと聞かされる。三本のけとは、やりぬけ、羨け、情けのけである。然し現在の世情は、やりぬけ成し遂げる、辛抱心が乏しい。羨けに関して有難い、感謝の心、勿体ないの心意気が薄らぎ、情けについても、思いやり、同情心が欠けている点が、ニュース、テレビで社会の惨めさを感じず。

老いたる余生は、三本のけを信じ深め、心を戒め、安定させ反省を成し、生き甲斐ある日記を綴りたいと願う。

感動

七期生文芸科 北尾 正一

老いることは、人間が感動を消失することにつながるのではないかと思います。とくに老人に迫りくる痴呆は全く感動の消失にしか他ならないかと思ひます。日々の生活の中で私達老人はもともと自然やいろいろな仕事、現象に対し興味や関心をもって感動することが長寿の第一ではないかと思ひます。

何時も変りなく輝く太陽や月に対しても、もう一度見なおし、美しさと興味を深めて、また野辺に咲く名もない花に感動し、常にそのような状況下に生きるよう広く眼をみはり、これからの人生を感動の二字で生きつづけたいものです。

広告を見て思う

七期生文芸科 北川伊太郎

掛軸の広告の中の言葉に次の様な文字が書れてあった。

和象豊財処世の本。和の心を以て人に接すれば自然と多くの財をなすことができる、和は実に処世の根本であるとの事である。

聖徳太子の十七ヶ条の第一の御言葉にも和以貴為と御示しに

なさって居る様に誠に大切な言葉であるが、現実の世の中は日々のニュースで知らせるように子供のいじめや人質人件、強盗殺人や政治の不信等々嘆かわしい事の連続である。我々は同じ地球の上で同じ空気を吸って生命を保っている人間同士として考えなければならぬ。思いやりの心やいたわりの心人を愛する心が大切だろう。

健康と食生活に思う

八期生文芸科 安倍 勉

“元気で長生きする”ということは誰しもの願いであり、そのためには常日頃健康でなければなりません。

先般親友より病後の健康回復のため栄養学セミナーに勧誘され、未知の小生には一寸迷ったが家内と共に参加、会場一杯の老若男女の聴講者に驚く。堅苦しい栄養学の話かと緊張したが素人にも理解出来る様な話をする話術巧みなセミナーであった。健康を維持し増進するためには栄養、運動、休養の三つの柱のバランスよく保もたれたときに初めて健康の維持増進が可能と言われています。私たちが毎日食事する食物は単に“腹を満たす”ということだけでなく身体の発育に、1.必要なエネルギーの供給、2.各組織の消耗の補充に必要な成分、3.身体の調子を整

える成分等を、供給する食物でなければなりません。即ち栄養分を摂らねばなりません。

わたくし達の身体は、六十兆から七十兆の細胞より出来ていると言われています。即ち細胞に必要な栄養は、炭水化物、脂肪、蛋白質であり、各々食品の調理によってバランスを取り入れる必要があることを強調、健康のために水を一日コップに四杯飲めと、持病の糖尿病の食生活について退院時に、栄養士よりカロリー摂取量と献立について、家内と共に指導を受け、特に食塩は一日七グラムを目標に減塩食の工夫を教わり退院、栄養学セミナー講義内容からも、実行はなかなか至難であります。健康で心豊かな生活を送れるように、正しい食生活の実践、習慣化に努めたいものと認識を深めた次第であります。

“脳死”をめぐる

八期生文芸科 洞 忠郎

脳死者の臓器移植についての考え方の確認、心臓停止＝人の死とする伝統的見解にどう対処するのか。さらに臓器移植によらなければ生きられない人々の存在を救済する方策は何か。

海外で移植を受けると少くとも数千万円の経費を必要とする。このように利害関係が複雑に交錯しているので、すべての人に評価される名案は見出しえない。脳死をめぐるのは、結局“三

方一両損”的解決策しか出てこないのではなからうか。

一定の年齢に達したときに臓器移植に対して賛否の意志表示をする制度を確立してはどうだろうか。

源氏物語を物語る

八期生文芸科 小川 常三

年末と正月に民放で四時間づゝ二回、華麗な絵巻を見せて貰った。皆さんはあれを見てどう思われたか知らないが、小生は二つの事に感心した。

第一は天皇のお后がマオトコされるといふ事を、小説に書く事も出来たし、読者が喜んで書き写してもてはやした、という時代のおゝらかさに驚いた。今誰かそういう類の小説を書いたら、世間は不敵だと騒がないだろうか。右翼が飛んで行って筆者を殺してしまうだろう。

もう一つは、昔の偉い人は仕事もせんと、ようあれだけ色事を楽しんでおれたなあ、という事です。あんたさんどう思う。

痴呆とプライド

八期生文芸科 岡田富治郎

痴呆は物忘れから始まり、人により多少の違いはあるが数の間違、衣服履物の左右裏表の逆着用、失禁、徘徊と進み、これをとめる手だてがない現状。

人は本能としてプライドを持っており、呆け老人も同じで、本人の前で本人を傷つける言動は禁物。又人前ではよい恰好をするので実態が他に理解され難い。嫁が舅や姑の介護に苦勞しているのに、嫁いでいる娘達には分らず嫁に文句をいう始末。

呆け老人を抱えた家族はプライドにこだわらず、周りの人達や行政の手を借りること。民生委員、保健所や家族の会などに相談されることが賢い方法。

睡花句う頃

十期生園芸科 鳥居 徳久

数年前のこと、京都北野天満宮近くの庵に活けられた一枝の香り高い臘花をめでたことがある。それから毎冬一月初旬になると我家の庭に植えてあるその花が咲き出す。今は早逝した人を偲びその花を憶う。臘花のことを、蕙梅花、九英梅、檀秀梅、

などという。一千六百年頃、中国より渡来したといわれる。昔は十二月のことを臘月と呼び、その頃からぼつぼつ咲き初めたからその名があるともいう。また花卉をよくみると花びらはうすく、黄色のろうたけたけ高い臘細工のようであるから、その名がつけられたともいう。近年は一月初旬になると葉より先に臘細工のような落ちついた光沢をした花が咲き、気品のあるよい匂いをはなっている。上等の蘭の香りに似ている。勿論普通という、白梅・紅梅らとは似て非なる程類である。ところでこの臘梅の花ことばとして、慈愛・憐れみ深いあなた、という、まことに結構な言葉でありびったりである。

植物でも動物でも土地、店の屋号などの歴史には、みなそれぞれのいわれがある。いちどお互いに自分の住んでいる周囲のいわれなどを知る事も大事だろうし、平成四年壬申の歳柄に、六十代―貢献の時代、七十代―探求の時代、八十代―充足の時代、のキーワードを作り「自分世界」を無限に描くことも大切だ。何事もそれぞれの匠や師、古老、先輩の御在世のうちに尋ねておかないと「しもた」と後悔することが多い。

比島観音を参詣して

十期生園芸科 中西 勲

平成四年一月二十日と二十一日近江八幡市金田学区老人会三役旅行で三河湾水良温泉に研修旅行し、帰りに三ヶ根山頂の比島観音を訪ね、さきに比島作戦に参加した陸海軍将兵六拾余万人の中、五拾余万人の戦没者の慰霊碑、各部隊毎の忠霊碑（四十二基）が建立され、毎年多くの方々のお詣りがあります。靖国神社、国家護持の問題はいつも事あるたびに話題になってもいまだその実現の見通しもない昨今、比島作戦に関係ある全国の遺族や生還者の有志の方々が三ヶ根山頂の一角に英霊供養のため荘厳な観音を建立されたことに対し感動いたしました。

私の気持

十期生生活科 富田 政尾

私は今、主人と二人暮し、周囲から、「気楽でよろしいですね」と、言われる。が、なかなかそうはいかない。精神的にはそうであっても、身体的にはきつい。私は家事は好きな方で、年よりだから、もう年だからと引っ込まないようにしている。いくつかの公的な仕事をさせていただいて、私の微力も多少役

に立っていると感謝している。医師の指示に従って健康管理には気をつけている。自分中心的な考えは生活を暗くする。明日は、明日はと前向きに、人を大切にして誠実に生きたい。

老大古文書授業

十期生文芸科 安田 よね

目が悪いので前の席に陣取る、和服の着崩れ遠慮から湯茶置場の戸棚が私の専用机となる。知事公舎を眼下に老大二ヶ年習字を学んだ同じ位置午前の授業が終り安田さん居眠っていたなァ「忘れ物をして来てね」何を忘れて来たのやいなァ「頭砥ぐ砥石忘れて頭の切れ味悪く頑張れなかった」と笑はす。笑いで目は覚め先生が説明と共に黒板に書いて下さった読下りを急いで書き写す、頭の白い一年生の腕白者共消すと消すと嚇かす。斯くて楽しい授業は終り独り今浦島となり家路に向う。来週の水曜日を楽しみに玉手鞆の宿題が煙とならない様に只管ら念じつつ原稿用紙が泣いています。



その後の日々

十一期生園芸科 二木 啓三

月日の立つのは早いもので老大卒業二年が過ぎました。在学中は病気になる卒業もあやぶまれておりましたが無事卒業出来ました。今では健康も取り戻し京都産業警備保障課へ務めております。丸の内町老人会の会長にたづさわっております。いろいろ勉強を教えていただきましたが中々頭に入らず、でもすばらしい方々とお友達になりました事が一番よかった事と思います。

もっとしっかり勉強もしておけばと反省しておりますが、少しでも地域のお役に立てばと頑張っております。今後共何とぞ宣しくお願い申し上げます。

ありがとう

十一期生生活科 高原ふみ子

「明日天気がよければ作業に伺います」人材センターよりの電話で翌朝九時天気を案じながら現場に行ってみると、もう除草機の音、焼却の煙が見えた。「お早ようございます今日はご無理を申しましてどうぞよろしく願います」と会員様にあ

いさつをする。十時茶菓を持参すると空缶拾い、ごみ袋の焼却次々と作業は進んでいた。午後三時熱いお茶と他人うどんに果物等を運んだ「こんなにして頂いたら損から先やがな」との言葉に躊躇する。一一四〇㎡の敷地も見違えるばかりになった。「良い処を持っていなはるのやなーもうこのまま草が生えんとよいのにな」人の触合いも思わぬ機会に出来るものです。論より証拠企業の品質をアピールするより従業員の実質であり、組織の内容も人間の情熱と真心が大切である。「こんなに気を使つて貰い色々ご馳走になって済まん事どしたなあ」午後の休憩もすみ周辺のごみを拾い再びお礼の挨拶をして別れた。シルバ―人材センターの江南様松村様大橋様の御婦人方、本当にお世話になりました。私は真心と親切な作業に感動し感謝します。「ありがとう」の言葉で人生はどんなにでも変わります。偉い人にはなれないがこの人達のように私も善い人になりたいものです。

満天の星

十二期生生活科 生田 薫

限られた少ない字数ですから今までに読み聴きましたもの、中で私が一番感銘をうけたものを選んで書かねばなりません。だ

とすると此のお話でございます。

終戦、廃虚東京、新宿の夜、星の美しい夜でした。

幾人も屯して働いている少年たちの中で、靴を磨き終った一人の少年が誇らしげに言いました。

「おじさん、俺の磨いた靴にはほら、星が映ってらあ」と。

哀愁の夜、星の明るい夜でした。

この子たちが五十歳に成長し今の経済大国、日本を支えているのです。日本の少年は負けていませんでした。

罪の差別

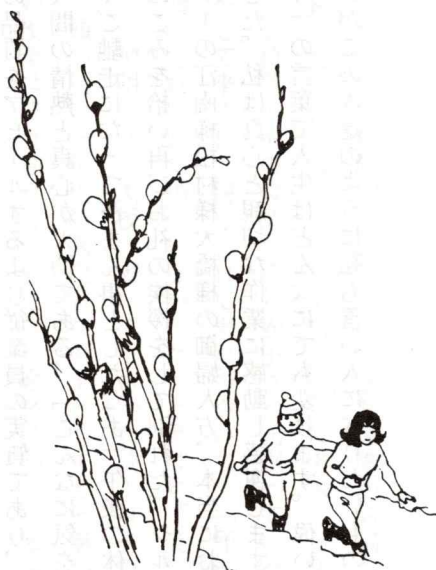
十二期生生活科 伏西千代子

科学の進歩に伴い、文化は廃れ気味となり、土地開発には緑地は消えつゝある。フネーは裏街道を一筋に、政界有力者の元へと走り行く。ロッキード事件以来リクルート、共和、佐川急便事件へと、国民の知らぬ間の出来事であった。特捜部、検察庁も調査に当たっているが、核心に振れると、立ち消えさるか、政界の圧力がのしかかり結末も発表出来ず、涙を吞まざるを得

ない事には？ 民間であれば終局を迎へて目出度しである。

罪は罪でも、罰に罰にも、差別があるのか、此れが二十世紀末の政界であるのか、金の力は偉大なもの、悪にせよ善にせよ。

霧の夜



「霧の夜に歩くと、足音だけが響く。静寂が、呼吸を促す。遠く、山が霞に消える。此の瞬間、世界は私だけのものだ。」

霧の夜、歩くと、足音だけが響く。静寂が、呼吸を促す。遠く、山が霞に消える。此の瞬間、世界は私だけのものだ。

罪の夜

罪の夜、歩くと、足音だけが響く。静寂が、呼吸を促す。遠く、山が霞に消える。此の瞬間、世界は私だけのものだ。

日に新にして亦日に新に

中山文太郎 元侍従大御

関西師友協会平成十一年元日「一日一回」として、「一年頭まつ

意氣を新にするべし、四年頭古き

事を一新すべし、四年頭新たに

に一新事を試み給むべし」と訓

で大いに感銘を新にして道徳の

第十巻へ仏教心理学、心理療法

いろ、十を贈呈いただいたので

めた、なかなかむすましくて書

腹に書くまじり立派な指導者を得

安を祈念している。

春のときめき

中山文太郎 元侍従大御

寒気寒気過ぎの年々年能なる

い平和な毎日でありますように祈

自然の大きな恵みの中で自分のリズムで毎日を計画、工夫と

技術でこの奥の深淵の傑作案を笑し、努力してゐる。

彦根、愛知、犬上支部

七十数年の長いことこの世話になつた社会へ感謝し喜ぶ今日の
思はれた恩徳を思ひて感謝しの毎日です。

私の長寿法

三期生文太郎 北川秀三郎

① 食物はなるべく長寿食を

② 運動入浴で血液循環を

③ 深呼吸で酸素の吸入を

④ 九十歳まで生きて今前健康を保てるも私は右三方法を勤行

してゐるためと云つて偉文を写し御参考にして頂ければ幸いです。

① 食は生命の源「一日三次の飯前口漱」食八分目と調味を、

植物性の蛋白質や油もよむとされます。大豆や海草類牛乳も

野菜は黄色色のものを取り、運動は軽い動作案に日毎車で近へ

走り廻るのも日課、入浴は毎日欠かさず、指圧手もみでからだ

中何れも替はくします。深呼吸は大切でからだの調子をみて

何時でも行つて頂きます。



日に新にして亦日に新に

二期生文芸科 元持孫太郎

関西師友協会平成壬申元旦「年頭自警」として、(一)年頭まづ意気を新にすべし。(二)年頭古き悔恨を棄つべし。(三)年頭決然滞事を一掃すべし。(四)年頭新たに一善事を発願すべし。(五)年頭新に一佳書を読み始むべし。と訓えられている。協会の一員として大いに意気を新にして頑張りたい。たまたま「井上円了選集」第十卷(仏教心理学、心理療法、新記憶術の三冊が収録されている)を贈呈いただいたので生涯学習の一環として勉強はじめた。なかなかむずかしくて歯がたちぬいがかかげさまで健康に恵ぐまれ立派な指導者を得たことを感謝し益々充実した日々をと祈念している。

春のときめき

三期生園芸科 辻 幸夫

異常気象続きの年末年始から一ヶ月、これからは天災の少ない平和な毎日でありますように祈っています。

自然の大きな恵みの中で自分のリズムで毎日を計画、工夫と技術でこの奥の深い農作業を楽しく努力している。

七十数年の長いことお世話になった社会へ感謝し幸い今日の恵まれた環境を思いご恩返しの日です。

私の長寿法

三期生文芸科 北川弥三郎

- (一) 食物はなるべく長寿食を
- (二) 運動入浴で血液循環を
- (三) 深呼吸で酸素の吸入を

九十歳卒寿となって今尚健康を保てるお蔭は右三カ条を励行しているためと敢て拙文を呈し御参考にして頂ければ幸いです。「食は生命の源」一日に三〇品種目標に、腹八分目と薄味を、植物性の蛋白質や油もよいとされます。大豆や海草類牛乳も、野菜は緑黄色のものを取り。運動は軽い農作業に自転車付近へ走り廻るのも日課、入浴は毎日欠かさず、指圧手もみでからだ中何度も揉みほぐします。深呼吸は大切だからだの調子をみて何時でも行っています。



感激

五期生園芸科 西沢 正三

加山雄三さんが往年の大スター父上原謙さんの死に際して別離の悲しみのあまり大きな手で涙をふいておられる姿を見て親思う子供の至情に心をうたれました。現在自分が生かされているのは父母の恩、神仏のおかげ、自然山川草木森羅万象、空気、水、力、のおかげです。殊に親の愛情は絶対的なものです。求めない愛情です。求めない愛情そのものが子供の心をとらえると思います。尚老人は恩を売ってはならぬと思います。人間は度しがたい動物でわしが、わしがと我をはりますが、皆さまのおかげですと感謝の日々を送りたいものです。

生甲斐を求めて

五期生文芸科 中島藤五郎

先づ健康、物事をくよくよ考えない明るく楽天的に物事を前向きに考える様努力したい。

趣味を持つ事も必要である。私は詩吟と民謡を習っている上手になる事も必要であるが、もっと大切な事は一人でも多くの人と友達になり親しくなる事である。でも習って居れば何

時からしい様になる。矢張り同窓会や宴会の席で発表する事が出来てとても楽しい。これが頭を使い適度の運動になる。動く事も健康の元である。但し若さは失って行くので何より大切な事は無理をしない事である。後につかれの残らない様に切角の残りの人生を社会の為につくそう。

短歌

五期生文芸科 杉本文治郎

土曜の午後小雪ちらちら中を凧上げの子ら河原駆けゆく
裸木の冬の庭木に氷雨残り茜に光り迅き夕暮

ふらふらと我前を行くやせ犬の背を秋の没日が照らす

ダム建てば湖底とならむ先祖の地離れ難きはこの木の石

鈴鹿嶺に出でし太陽見るみるに湖面照らしわが町始動す

遠出する我も立ち来し厨にて鏡の中まで晴れし空見ゆ

北よりの駿雨忽ち過ぎし湖虹を冠りし湖東連山

時雨過ぎし庭の松よりしたたりが茜に映えつつ煌めき落る

仏性訓

六期生文芸科 藤居与三吉

一、人は有の価値を見ると無の価値を知らず生の価値を見るも死の価値を知らず

二、蜂は蜜をとるに花や香りを害わず人もまた愛欲を求める為に相手の人格を害わしてはならぬ

三、三才の幼児は無心にして嘘言ふ事を知らず、八十才の翁にして嘘を言うものである。素直な仏性を汚すのは大人である。

四、新鮮なるものに蠅はたからず人もまた心身正しからざれば禍い身にあつまりて追えども離れず。

(抜粋しメモしたるものなり)
大いに心すべき事と存ず。

近況について

九期生園芸科 西田 吉男

諺に「月日のたつのは早いものだ」卒業後町内老人会員となり現在副会長の大役を命ぜられて毎日を過しておる。学校にて技術を習得したけれど町内でさて実習に入ろうと思うが先輩諸

兄が講師となっておられるので自分としてはあまり表面に出ない方がよいと思ひ話し合う程度にしておくのがよいと思う。種子を播種して育てながら作ると云うのは大変苦勞するも出来上って来ると過去の苦勞を忘れてしまい会員相互の作品を見てそれぞれの特長を研究することは大いに勉強となる。今度もこれを継続するようにと話し合う今日である互に頑張ろうと思う。

近況

十期生陶芸科 上原繁太郎

老大卒業の諸兄妹の皆様、平成四年の新しき年を、御壮健にて御迎になられた事を心より御慶び申し上げます。

私も卒業後お蔭様にて健康にて当字の老人クラブの支部長を務めさせて頂いております。在学中に諸先生方に教えて頂いた事を活して、社会の為に一つでもお役に立つ事をやって行きたいと思っております。

真剣の前に不能なし。の諺の様に一生懸命頑張って行く覚悟です。老大卒業の皆様いつ迄も御元気で、笑顔のたえない明るいお年寄りになって下さい。

恩に報いる

十期生文芸科 浜野喜三郎

「一隅を照らす、これ国宝なり」伝教大師が山家学生式のところで教えられています。

老大で学んだことを何とか地域に生かしたい、というのが私の念願です。そのことがまた私自身の生涯学習につながるんだと言いきかせています。

今町老クの会長と郷土の偉人（甲良豊後守）の読み物編集に取り組んでいます。今後の老人福祉の問題を考えると、仕事は山積するばかりと感じます。

そんな中で、三年前から短歌の会（老クの中に）を発足させ毎月の詠草のまとめの世話をしていますが、趣味として取り組めることを幸せと思っています。

『老大へ再入学の夢を果たす』

十一期生園芸科 磯貝 澄雄

卒業後の空しい日々の生活から老大への再入学の機会が得られないだろうか、夢のようなことを考えていた矢先にレイカディア振興財団から、ボランティア募集の知らせをいただいた

ので再入学のつもりで早速これに応募した処、その夢が正に現実のものとなり、現在も老大のボランティア兼聴講生のような形で通学させて貰っている。

ボランティアの仕事は、テキスト作成や講座の助手などで、講師の許可が得られれば聴講生として学習することも可能で、私は文芸科一年生の皆さんと共に楽しく勉強させて貰っているという次第である。

如何に生きるか

十一期生園芸科 大木 修

人間はだれひとり自己の選択によって生まれた人はいない。自分にだけ与えられた生ならば好きな時に清算すればよいのだが、そうもいかないらしい。自分の生は自分の力だけでなく、実に多くの人が生かしてくれたのだ。

一匹の野良猫同然の生命なのに、自分以外のすべての人のおかげで生きてこられたのだ。人間社会は決して美しいばかりでなく、醜いことも多いが、生まれた以上それを全うしたい。生きることは呼吸するだけでなく、行動であることを自戒し「生きる」価値をより大きく高くせいたく考え、人のために生き自分が少しでも役に立つようにしたい。

不思議な生命

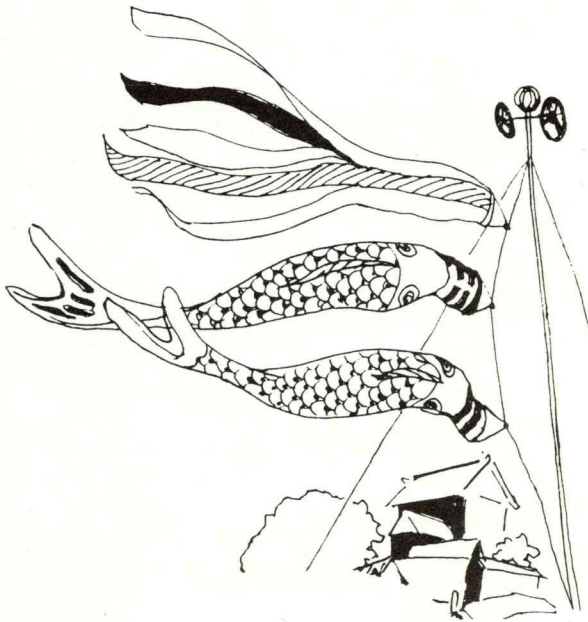
十一期生スポレク科 田附 民子

「あら！私どうなったの？」たった今自治会長さんと広場で話していたのに！！突然銀世界へ放り出されてしまった。……救急車！ 救急車！ かすかに耳に入ってくる。

あとで聞くとところによると、広場に駐車してあった車が猛スピードで急発進し私をボンネットに押し上げハンドル切られた瞬間に路上へ放り投げられたとの事、車は駐車してあるトラックターに激突し大破したとか、もし私が挟まれてもしていたら内臓破裂か首の骨でも折れて即死だったかも！ 想像しただけで寒気がしてくる。現場にいた人達はもう死んでいるのではと思っていた人もあったとか…… 病院では念をいれて検査して下さったが帰宅していいとのこと骨折一つないのである。勿論脳のショックのため二日程は安静にして休んだが四ヶ月過ぎた今も何の症状も出てこず本当に嬉しい限りである。これは正に神仏のご加護があったればこそでただただ手を合す毎日である。それにしても私程運のよい者は先づないであろう、果報者だとつくづく感じ入っている。

お蔭で老人会でも友愛訪問、音楽、冠句、お楽しみ会（八十年代の方々にお茶や食事を楽しんでいた会）等をさせていただき、趣味もあれこれ出来、生きている喜びを今更のご

とく実感している毎日である。



二期生文芸科 吉川 武男

「ヒンヤリとした夕の静けさを感じる」（尾崎俊雄）なんて
 綺麗な言い方である。ガラスの山は製紙機を走らした
 て騒音と遮断したのもうだが、それは決して日本人のなにほさを
 あらわしていません。狂詩はこんな感じだ。送っているのではない
 ぞと、何か、私達は真面目な人間だと示しているが内には
 怒るらしい重荷の感じもあつて、即ち式たらけのケツ
 と膝子をゴックリとちめて、たまに、たまに、たまに、人間です。
 是日酒が二盞でも心の底をまた、まよひをながす。と書い
 ていますか心の琴線のをれあいがあつて、彼の静けさで暮ります。

私とワープロ

湖 北 支 部

二期生文芸科 小林 平八

老妻と死別して故郷の花しさを物申したいと、この一月か
 らワープロで練習することにした。八十の手習いでほとんど筆
 を失つたのではと切ったが、やってみると意外面白く、つい何も
 かも忘れで夢中になつてしまつた。
 私の生活にはワープロの必要群はない。大抵の日殆ど無いけれど

でも、即ち「を聞くといふんな文字がジョンジョン飛び出し
 時にはとんでもない文章がのさばつたりして苦勞するが、それ
 を制しつる文には付し付てゆく操符はパネルでもやつている
 まう。言葉もさもあり、強味津々たるものがある、出来たら又私
 の排けが果してでも手掛りてみたいと思つた。

不けんいたために

六期生園芸科 牧野 寿

私たちが生きて、年々高齡化社会に対する意識が急遽に
 なつてきています。国の福祉政策や社会の対応に対しても大き
 い関心を寄せるのは当然と思ひますが、私たちが自分あつと考へ
 なければならぬところがあると思ひます。それは自らから出来る
 限り人類の世帯にならないよう努めることだと思ひます。それ
 に貢献すること、頭脳を使うこと、物を製造すること、人々
 の交遊を図ること等積極的に刺激を求めていくことが大切だと
 思ひます。なにせすでに終日テレビを見て暇さえあれば寝か
 けているような人は早く不けんになるやまいといわれています。
 私の知る範囲にも「もう年だから」とか「いい年をして、そ
 んなことは出来ない」といつてゲートボールも老人会のお茶に
 も出席しない人がありますが、私は年台に關係はないと思ひま

破れ障子

三期生文芸科 古川 武男

「ピツタリと穴だらけの障子をしめる」（尾崎放哉）なんと飾り気のない句である。ガラスのない昔は破れ障子を夕方しめて外部と遮断したつもりだが、不体裁で住む人のだらしなさをあらわしています。私達はこんな生活を送っているのではないでしょう。私達は真面目そうに善人づらをしているが内にはおそろしい虚仮の醜い心をもっています。即ち穴だらけのヤブレ障子をピツタリと極めて、すましている恐ろしい人間です。夏目漱石が「誰でも心の底をたたけば悲しい音がする」と書いていますが心の琴線のふれあいがあれば、愛の障子に変わります。

私とワープロ

五期生文芸科 小林 平八

老妻と死別して独り居の佗しさを紛らしたいと、この一月からワープロに挑戦することにした。八十の手習いではとても難かしいのではと思ったが、やってみると案外面白く、つい何もかも忘れて夢中になってしまう。

私の生活にはワープロの必要性といったものは殆ど無いけれ

ども、只キーを叩くといろんな文字がピョンピョン飛び出し、時にはとんでもない文字がのさばったりして苦労するが、それらを制御し乍ら文に仕上げてゆく操作はパズルでもやっているような楽しさもあり、興味津々たるものがある。出来たら又私の拙い歌集にでも手掛けてみたいと思う。

ボケないために

六期生園芸科 秋野 昇

私たち老人が増えて、年々高令化社会に対する世論が話題になってきています。国の福祉対策や社会の対応に対しても大きい関心を寄せるのは当然と思いますが、私たち自身もっと考えなければならぬことがあると思います。それは自らが出来る限り人様の世話にならないよう努めることだと思えます。それには運動すること、頭脳を使うこと、物を創造すること、人との交流を図ること等積極的に刺激を求めていくことが大切だと思います。なにもせず終日テレビを見て暇さえあれば眠りかけているような人は早くボケになりやすいといわれています。私の知る範囲にも「もう年だから」とか「いい年をして」そんなことは出来ない。といってゲートボールも老人会の会合にも出席しない人がありますが、私は年令に関係はないと思いま

す。要はやる気の問題で、人のことを気にしないで、あれも、これもと積極的に行動することがボケ防止につながると信じて、満七十九才の現在も下手の横好きで公民館教室の書道、水墨画、古文書解読、歌謡、文芸、シルバー学級に参加のほか毎朝の駆足と週二回のゲートボールにと忙しい日々を送っています。

日々の心得

六期生文芸科 藤井 峯子

先づ健康を神仏両親に感謝し「努力は天才なり」と根気強く規則正しく「学びの道に年限無し」と趣味を生甲斐とし一期一会人間関係を大切に愛情を以って相手の身を思い人の字の如く支え合い責任を重じ「他人に優しく己を律し」悔を残さぬ様反省し「泣くも笑うも心から」と何事も前世よりの宿業と諦らめ愚痴ず常に言語行動を慎しみ和顔愛語をモットーに不言実行足を知り自惚れず今日一日を大切に老卒のプライドを汚さぬ様老人層の範を示し文明の現在にもフツチする故人の教訓諺を胸に心に若さを保ち「らしさ」を忘れず美しく老い度いものと常に合掌しつゝ心得ています。

“程”という字

六期生文芸科 広部庄太郎

山岡鉄舟筆の書の額に“程”という字が書いてある。その次に小さく“人間万事この一字にありとある。この言葉は私にとって永久に忘れられない程、私の心に染みついている。

昔から良い格言は随分とあるが、たったの一字だけではあるが、この程の字を標準にして世の中のことを見ると、何にでもあてはまる。昔から程ほどにせよとか、程を守れという言葉は中庸を得よとの戒めなのである。人間は第一に程を守ってさえいれば、凡てのことはスラスラとうまくゆくに決まっている。あゝ程なる哉ほどなるかな…。

(この“程”の文章は「天国の礎」という本から引用しました)

× × ×
数年も前になりますが、老年からハワイに親善旅行に行ったことがある。二世の人達と親しく交流した思い出がある。

二十余人がアロハ会を結んで例年、県下の随所で思い出会をやっている。今春は長浜が当番で、二月十六日に集まり竹生島宝厳寺の特別展や、盆梅を觀賞してもらうことができた。

平成の出開帳によって、琵琶湖の霊竹生島の歴史を知ってもらえたと思っている。

毎年や梅咲くころの長浜へ
冬めくし盆梅入替散り敷きて

公民館を拠点として

七期生園芸科 辰巳 外弥

生涯教育の場として各市町村に公民館が建設されている。
我々老主に学んだ者は自分一人の趣味や教養を満たすだけではいけない。折角学んだものは公民館活動を通して地域社会に輪を広げて行きたい。同窓生が中心となって積極的に仲間造りをして、各部門毎に同好会やグループ造りを進めて行き公民館の協力を得て活動して行きたい。そのためには各地域毎に同窓生の交流の場を造り、情報交換や相互連絡の場としたい。
それには先づ公民館毎に同窓生が相寄れる場を造りたいと思います。

自分なりに

十一期生園芸科 田辺 一

最近は何処へ行っても生涯学習である。県では放送大学とか

いう講義があるし、木之本町でも、他の市町村と同じく、リフレッシュ講座、生き生き学級、公民館教室等、いろいろの講座が開設されている。

私も、老いの身に鞭打って、できるだけ参加しようと頑張っているが、趣味講座では、どうしても盆栽に足が向いてしまう。今年の生き生き学級では盆栽を受け、リフレッシュ講座では正月寄せ植えを習ったが、先生によってそれぞれ個性があって参考になる。私も、未熟ながら、早く自分なりのものができればと思う今日この頃である。

感謝の毎日

十一期生陶芸科 大濱寛一郎

新しい年を迎え、昨年も一年間家族ともども健康に元気で過ごせたことに感謝で一杯です。今年も又楽しい毎日であります様に努めたいと思います。

最近専ら晴耕雨陶のことが多いのですが寒い冬の間は終日陶芸で楽しんでいきます。陶芸のあい間に日当りのよい縁側に腰を下し手入れのできた庭や草花を眺めているのが一番心のなごむ幸せな一時です。老人にとって健康で自分の好きなことがしていられること程幸せなことはありません。現在の境遇に感謝

の気持を忘れず、一日でも長く続くことを心から祈っています。

歩いてみませんか

十一期生生活科 川崎 英

約三軒の道のりを胸を張って腕を振って、足は踵から力強く大地を踏みしめ速足で歩く。十一月から「歩け歩け運動」の間に入る。初日は足の裏筋が張ったり腰がだるくなったりしてみんなについて歩くのが精一ぱいで日頃の運動不足を痛感する。でも手足は暖かく体はしっかりと汗ばみ歩いた後の快さは又格別。毎日休まず続け歩きの効果の大きいことを体験し友達にも勧めている。老化は足からと云われる。歩くことはボケ防止にもなるとか、加齢とともに体力の衰えは仕方がないが、運動によりその低下をゆるめ健やかに老いたいとねがう。

スポーツレクリエーション

十一期生スポレク科 正福寺孫太夫

湖北地方の活性化と指導者養成を目的に開校された米原校で全国にも数少ない「レクリエーション学科」に二ヶ年学び、滋

賀大教授草川先生と、吉川先生全国的にも有名な両先生のご指導により私自身に励みと力を与えて頂きました。

私はいま市ゲートボール連盟（会員四三〇名）と共にふれ合いの輪をひろげ、健康づくりを楽しみ、また長浜市のシルバー人材センターの二百余名の安全委員として常に安全を祈りながら「吾以外皆師なり」の訓を守り「無財の七施」を大事に心掛けて行きたいと考えております。

学友との出会い

十一期生文芸科 後藤キク子

年賀状や四季折々の便り、お元気ですかの電話など、温かい学友の心にもふれながら二ヶ年はたちました。

生涯学習の大切さを知り老大に入学し、皆さんとの出会いの素晴らしさ知りました。学友の親切に支えられた通学の日々、友との語らいすべて感謝でした。

この出会いがいつまでも、元気で温い交流が続きますように……自然と一体となる俳句や、熱心な辻先生の書道は忘れることはできません。老人クラブの中で生かし婦人部活動の中に活かすべく、今日の健康に感謝しつつ一日一日を大切に暮らします。

老いを心豊かに

十一期生文芸科 林 春三

わが町伊吹町では昨年十一月二日に町老人クラブ連合会と町議会議員とで、自立と共生をテーマとしたシンポジウムを開催した。私が町老ク連の会長として最初にあいさつをし、パネラーとしては町会議員四名と町老ク連役員四名がそれぞれ意見を述べた。この催しは県下で初めての事として県老ク連としても注目され関心を深めたのである。斯くして心身共に健やかに残照を生かし、社会に参加して少しでも貢献できる自負と幸せを感じ、老人大学で習得した知識と技能を発揮したい。そして今後共の滋賀県老人大学の発展と弥栄を望んでやまない。完

二つの宝

十一期生文芸科 馬淵 尚之

老大を卒業して私は、二つの大きな宝を持つことが出来ました。

その一つは、吟行の楽しさを見い出したことです。現在、山東町の老人を対象にした文芸講座（会員四十数名）を担当。昨年は、信楽陶芸祭と美浜の原発へ行きました。交わす盃で交

を深め喜んで頂いております。

二つめは、長浜市グランドゴルフ協会の会員の一人に加えて頂き、競技を通じて新しい仲間が何人も増えたことです。練習は週一回程度持たれます。

これからも二つの宝を生き甲斐のひとつとして大事にしていきたいと思っております。

熟年一回生

十二期生文芸科 金森 嵩

珍しい記事を見た。現在年間十三日の祝祭日の内春分の日と秋分の日が法律に確定日の記載がなく前年の二月一日の官報に国立天文台が発表するのだから面白い。原則は閏年の春分の日は三月二十日で平年は二十一日である。所が来年は三月二十日と二月一日付告示された。天文でさえかようなゆとりがあるのには驚いた。車のハンドルでもかなりなゆとりがある。そんな見方で老大の二年間を振り返ると各人のゆとりとも言える隠し味がよく判った。その故か卒業後も全員『熟年一回生』として在学中にも優るペースで接触しているのです。日々を感謝しつつ。

手ひわり二昧

上 朝生園芸科 横田三千太郎

卒業以来まだ半年にもなりません。「同じ業の仲間」で度々集って遊んでいますが、

若くて偉大ものは、商業の技術の習得をなすことにより老成と交ることが出まわることです。

又、若大経営者の手で、町会組織の陶芸教室を手伝うことになりました。教室の皆さんは、とてつとてやる気充分、楽し

く手ひわりを続けています。年を経る程に上達するはずが、正・輪・虎のすべてに疑問た

らけですが、健康に留意し、老成たる「人生百年後援は「週刊」の語のように、手ひわり」をまたいと遊んでいます。

部 支 島 高

朝生園芸科 横田三千太郎

開るく楽しく明らかな生活に目標は、興味は責任を定めて他に迷惑をかけないように、やさしさの言葉です。

ありがたうは、相手の存在を十分認める言葉

ありがたうは、相手の親切をかりしめる言葉

ありがたうは、相手のほほえみを受け取る言葉

ありがたうは、相手の誠意を引き出す言葉

ありがたうは、相手の立場を思いやる等の言葉

ありがたうは、相手の気持ちを察する言葉

ありがたうは、相手の言葉を聴く言葉

ありがたうは、相手の行動を応援する言葉

ありがたうは、相手の存在を認める言葉

業師 如来

上 朝生園芸科 輪井徳左エ門

昨秋、紅葉の高遊をたずねました。御護寺金堂の、業師如来をおがんで、今までにない感動を

しました。

恐ろしさを、じつと堪える、意志の強いお顔でした。私と同じ

手びねり三昧

十二期生陶芸科 横田三千太郎

卒業以来まだ半年にもなりません。「同じ窯の仲間」で度々集って楽しんでいきます。

老大有得たものは、陶芸の技の他に、幸せなことによい老友と交わることが出来たことでした。

又、老大有芸科のご縁で、町公民館の陶芸教室を手伝うことになりました。教室の皆さんはとても熱心でやる気充分。楽しく手びねりを続けています。

年を経る程に上達するはずが、形・釉・焼のすべてに疑問だらけですが、健康に留意し、老大有で聞いた「人生百年最後は一週間」の話のように、手びねり三昧に生きたいと思っています。

ほほえみのプレゼント

二期生文芸科 岸田 七次

明るく楽しく朗らかに生活に目標仕事趣味責任を定めて他に迷惑をかけないように、やさしさの言葉五つ。

ありがとうございます、相手の存在を十分認める言葉

ありがとうございます、相手の親切をかみしめる言葉

ありがとうございます、相手のほほえみを受ける言葉

ありがとうございます、相手の誠意を引き出す言葉

ありがとうございます、相手の立場を思いやる等の言葉

普段なにげなく過している家庭生活の中にも、実は感謝すべき事が多くある事に気づかされる詩ではないでしょうか。「家族が助け合うのは当たり前じゃないか」「改めて言葉に出すのは恥ずかしくて」等と引込み思案にならないでささいな事でも、「ありがとうございます」とさわやかに言ってみると言われた人はきっと笑顔を見せてくれるものです。心の中だけでどれほど感謝していてもその心を形に表さないと相手には届きません。この一言を使い続けることで自分に対する周囲の人の助や励しに気付くようになり、和やかな家庭がつくられていくのです。私はありますがとうをモットーにして居ります。

薬師如来

七期生陶芸科 駒井徳左エ門

昨秋、紅葉の高雄をたずねました。

神護寺金堂の、薬師如来をおがんで、今までにない感動をしました。

悲しみを、じっと堪える、意志の強いお顔でした。私と同じ

くらの体軀で、しかと大地を踏まえて、苦悩に堪えておられました。悲しみに堪えて、生きていられるのが仏さまであり、極楽はその中にあるのだということがわかりました。

仏を信じ、未来を信じ、悲しみに堪えて生きていくことが、大切だと教わりました。ありがたいことでした。

すがやかに

九期生文芸科 中島 捨雄

すがやかに

声高らかと集い逢い

湖国に育ちし我が友等

学びし日々の思出が

幾年経ても懐かしく

心の絆身にしてみ

思出今もよみがえる

健やかなれと祈り居て

個々の姿を目に浮べ

友を思いて今日も過ごさん。

今日このごろ

十二期生生活科 山寄 渡世

先日老大一年生の方に駅で出あい「今日は選択の日やなあ。」うれしそうな笑顔でした。その時、自分の通ったことを思い出し、病気で休んだことは一日もなく学べた喜びを今さらながらかみしめました。

この頃は、心身の健康を願い定期的検診、人々との出会を期待しています。幸いなことに若い方から年輩の方々と話す機会が多く、各年齢層から参考になる考えを聞き、又意見の交換等をし、変化のある生活を送っています。

今後も奉仕活動と生涯学習を私なりに続けて行きたいと思っている今日この頃です。

難しい・忙しく

十二期生生活科 横江 かよ

楽しく充実した老大の卒業後忙しくしていないと気ぬけしそ
うで畑づくりに精出しています。肥料のやり過ぎで成長が止ま
ったり、連作で失敗したり難しい事づくめです。体力の衰えは、
ミネテラーに助けられ、季節の変化に翻弄され一喜一憂して

います。昨年の台風一過の時、野菜の進物は重宝がられました。育てた花を生け、詩吟を口ずさみ乍ら、野菜や花に語りかけたりの一人暮しで、うきうきするのは、やっぱり同期生のおさそいです。お友達との語らいは楽しく、皆さんと、いつまでも元気で交流を続けたいと願っています。

卒業後の私

十二期生生活科 弘部 ふみ

若い頃の女学生気分を楽しみ乍ら通った老大の二年間は私の人生にとって大いなる何頁かになりました。ましてお友達も幅広く県下にまたがり何か心豊かな気が致します。その後私も相変わらず元気で居ります。"年の差なんて云々"とは恋ばかりではありません。私は年の差を乗越えて何かを吸収しようと、老いに混じり又若きに混って物習いに励んで居ります。字を書き、コーラスをしたり、手先を動かせ、身を動かしてグループに混り一週間も随分短い気が致します。これが唯一の呆け防止と信じて居る私です。卒業後も出来る限りの機会をつくり皆様と会合を持ちお互が楽しみ励し合ってゆく事を定めた私達生活学科は、この上もなく明るく朗かなクラスになりました。その一員として何時までも健康で頑張りたいと願って居ります。

出 合 い

十二期生生活科 武田 静枝

人間の一生には、いろいろな出来事や、人との出合いがある。その不思議な縁が、再び新たに未来を歩む力になって行く。出合いを大切にし、他者の立場を大切にする者は、豊かに生きることが出来ると思う。

無縁であった人が、ある時突然有縁になる。しかし、その有縁がすぐ消えてしまう人もあれば、いつまでも続き、それが、心のふるさともななって生きる力になる出合いもある。

出合いとは、不思議なものである。

強敵といっても同じ人間ではないか、こちらが思っていることを同じように思っている。人、生まれたときに貴賤富貴の別なし、要は生きていく間にいかに自分のものにするかで貴人、富人が決まるだけである。

おなご、それは頑健なひと

女、それは妖艶なひと

女性、それは弱くやさしいひと

婦人、それは平凡なひと

夫人、それは夫の影でつましいひと

いきいきとした老後生活

九期生文芸科 熊谷 正三

人としての幸は心の豊かさにある。今までは稍もすると高齢者をお世話する対象として見がちでしたがこれからは高齢者も持っている知識技術エネルギーを社会にどの様に活用していく事が必要であり二年間に修得した基礎的学習と長年の豊かな体験と技術を生かすどの様に社会に役立て、行く事を考えなおして、より新たな高齢者の社会的役割について地域の実態に即し創意工夫を生かしたあり考を考え、人として心の豊かさを堅持しつづけていく事こそ、生涯学習ともなりいきいき老後にもなるのではないでしょうか。

長生き音頭

一、ハア！皆な踊ろうよ

長生き音頭

心明るく身は軽く

六十、七十まだ若衆

花の人生八十から

ほんに元気でおめでとう

まだ若いまだ若い

ほんに元気でおめでとう

二、ハア！皆な踊ろうよ

長生き音頭

踊りや足腰強くなる

苦勞忘れて喜べば

顔もつやさえましてくる

ほんに皆さんありがとう

頑張るよ 頑張るよ

ほんに皆さんありがとう

生涯学び続ける事が社会にも必要とされる日々がくると思いますが。



老大同窓会結成十周年記念式典

盛大に挙行される

実行委員 高野 惣平

滋賀県老人大学校同窓会結成十周年記念式典が、平成三年十月五日大津市におの浜、アヤハレークサイドホテルにおいて開催され、県下八支部から出席者二九二名、来賓として滋賀県老人大学校長代理、副校長鎌田昭二郎、滋賀県議会副議長桑野忠氏他三名のご臨席を賜り盛大に開催されました。顧みますと、平成二年七月十八日、同窓会十周年記念事業実行委員が開催され、当日の第一回委員会において、種々討議の結果次の事項が決定された。

一、記念式典 日時 平成三年十月五日

場所 大津市内

二、記念号同窓会報の発行 全員投稿のもの

三、母校へ記念品贈呈 青銅製大花瓶

四、記念事業協賛金 記念事業趣旨書による募金

以上四項目が決定され、実行委員の業務分担が決まり、準備にかかることとなった。会場確保のため、大津市内の公共的施設及び、ホテルに予約のための交渉に歩いたが一ヶ年以上も先の日時であるが既に予約済であったり、飲食を伴う会合には貸さないとかで不可であったり、予算上の点で駄目となったりしま

した。その後何か協議を重ね紆余曲折を繰返し乍ら、役員が連絡を密に乍ら協力し合った。中川同窓会長の指示のもとに、それぞれの分担業務に従って努力し、特に老大事務局の堀野徳雄氏の援助によるが多かった。

当日は幸い好天に恵まれ、記念式典は、定刻大津支部長の司会で始まり、中川会長より、母校に対し記念品の花瓶が贈られ続いて、会員で老建学の精神に則り地域の指導者として、優秀な業績を納められている者に対し、表彰状を授与された。中川会長の式辞には満場の惜みない拍手が沸いた。来賓の祝辞は県老人大学校長代理として副校長を始め、前老大校長代理及び滋賀県議会桑野副議長より力強い励ましの言葉があり、一同感銘した。

第二部の会員意見発表に移り大津支部正岡吉三郎氏より永年に亘る地域社会に対する貢献と、高齢者で優れた技能と豊富な経験を生かし、老人の生きがいとして働らく希望者のシルバール材センターの就労幹旋について発表があり、次に高島支部、三矢博子さん、彦根愛犬支部濱野喜三郎氏の両名から過去と現在における活動状況と実績の発表があり、最後に老大校歌を斉唱し記念式典並に会員の意見発表を終了した。

懇親会は別室大広間において開催、中川会長の開宴の挨拶に続いて大津支部第一期生吉田貞雄氏の発声で乾杯した。懇親会において、会員の隠し芸としての出演者は手品、仕舞、民謡、

合唱等であったがそれを待たずに、カラオケが飛び出し、自慢の喉を披露し、一曲ごとに笑いと拍手が湧き宴は次第にはずんで終始和やかな雰囲気包まれ、十周年記念式典の総てが盛大裡に終了したことを心から喜ぶものであります。

滋賀県老人大学校同窓会

研修部のこと

研修部長 島田寅治郎

一言の主治医の重み今朝の雪 参志。(全国組織・月刊俳諧誌正風)当季集に、同人の今村女史は、何と言れるか貌をじつと見つめ二言三言が胸にこたえます。今朝の雪で気持が強く表現されていると、推薦の評があった。人並の苦痛と不安を味い乍ら、春浅い三月治癒退院寿命を戴きました。去る六月研修委員(三矢高島・下司大津・島田甲賀・中谷近江八幡・野中彦愛犬・松下湖北)が集い、今年度のプランを検討して纏める事になった。研修部会の模様を要約すると凡そ次の様である。

(A) 今迄の様子、比叡山・竹生島・沖島・奈良少年刑務所・琵琶湖バレイ・等々を一応整理して、折々の実施目的や経費並に参加者の反応等を参考に、本年度の研修計画特に研修旅行の決定に努めた。

(B) 立案にあたって。第一にすがやかに高齢化社会を生きる実践力を高める事、次に積極的に活動に参加すること。又老人福祉推進を高めひびきあいつつ、しなやかに今日を生きよう。そして自然に親しみ、文化や歴史に触れ、友と語りあい意義深い研修の一日を願って実施するように纏まった。



(C) 具体策としては、

期日 平成三年九月五日(木)

研修目的地 ◎保津峡川下り(静、深淵・動、激流・十六

km 船旅・二時間)、◎嵐山嵯峨野辺り、昼食・自由散策、◎

トロッコ列車、試乗・フランス流行の装飾式「アールデコ風」

等々悠久の歴史ロマンを誘うプランが協議され、旅行責任業

者と交渉し、費用一人当たり壹万円(旅行保険を含む)とし、

各支部長を通じ、同窓会員へ参加希望の案内を差上げ申込を

纏めたのである。

(D) 結果 バス三台の参加者が集い併も、天好も上々、道も川

(河)も人も事故なく、立案の目的も果す事が出来嬉しい結

果である。その間にはハプニングやミステーク等が有りがち

であったが中川会長の御指導は勿論であるが、特に同窓会事

務局長の堀野先生が御苦労くださって、バス・船・列車等の

困難な交渉や打合せ等総てスムーズに、今井女史と共にこな

していただき研修を全うする事が出来ました。又研修委員や

各支部の役員のお骨折りにより、多数の賛同と参加者を得ま

した事に、衷心よりお礼申し けます。

(E) 滋賀県老人大学校成果展(平成三年度)開催について。

去る十二月十三日午後研修部会をもち、標題(E)につき大要

次の検討結果を得ました。

◎趣旨は、昨年(平成二年)と同様、長年の豊かな体験を基

礎に創作活動に励んでおられる事を信じ作品の鑑賞と相互

研賛向上発展と社会的交流を促すと共に本県の生涯学習に

対する認識と同窓会発展に寄与出来る事を願って、滋賀県

老人大学校在學生と共に、成果展を開く事にする。

◎基本的な要項

開催期間、平成四年三月四日～三月九日(搬入搬出をふく

む)

場所 大津市浜町 滋賀銀ホール

応募作品 工芸(陶・彫) 文芸(書・短冊・軸・額) 絵画

(日本画・洋画) 写真(カラー・モノクロ)

◎その他 昨年の出品展数は合計で一四〇点位、何れも苦勞

の作品で見事なものばかりであった。今の時限では進行中

です。昨年を上廻る点数と出来映を願って、成功を祈る而

已。

(F) 終りに。

会員が御手元にされる頃は既に新年度が始まっています。

研修旅行や作品展(成果展)その他研修に関する御意見や御

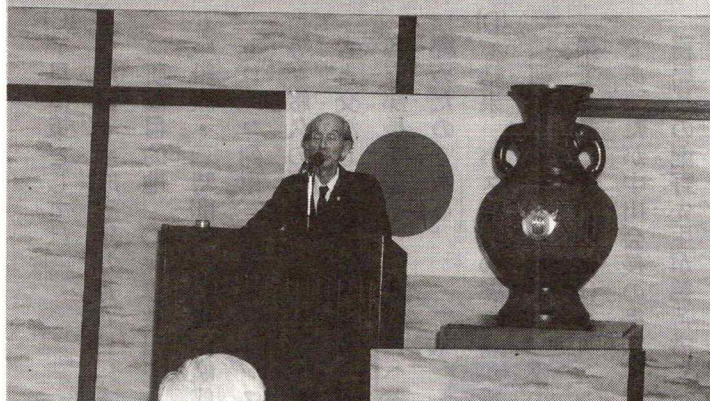
要望等、些細な事と言わないで、大いに反映させて、お互に

老を生きようではありませんか。それがすがやかに、韻きあ

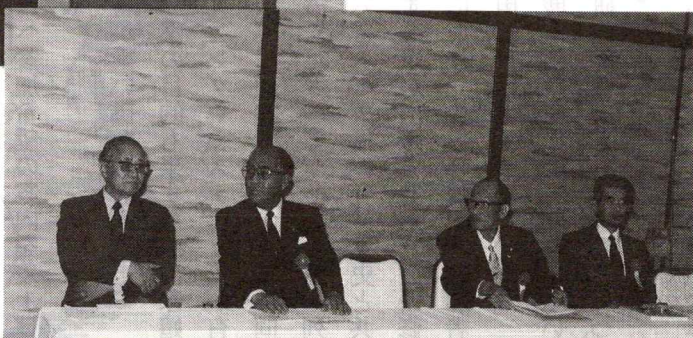
いつ、明日をひらく事に繋がると信じます。

有難うございました。

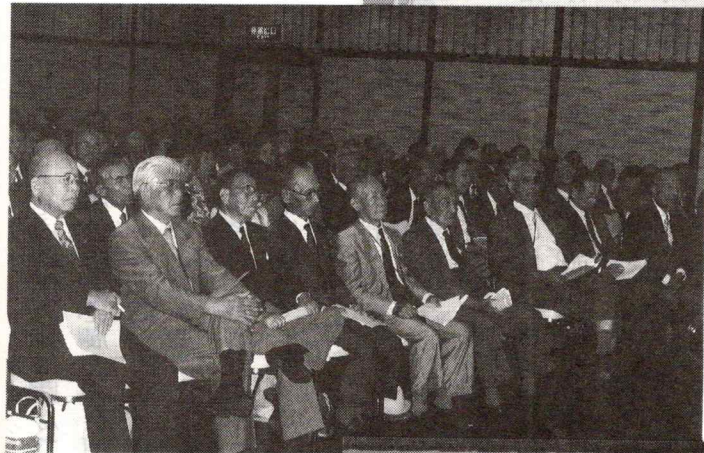
賀県老人大学校同窓会結成10



賀県老人大学校同窓会結成10周年記念式典
 賀県老人大学校同窓会結成10周年記念式典
 賀県老人大学校同窓会結成10周年記念式典



賀県老人大学校同窓会結成10周年記念式典
 賀県老人大学校同窓会結成10周年記念式典
 賀県老人大学校同窓会結成10周年記念式典



賀県老人大学校同窓会結成10周年記念式典
 賀県老人大学校同窓会結成10周年記念式典
 賀県老人大学校同窓会結成10周年記念式典



賀県老人大学校同窓会結成10周年記念式典
 賀県老人大学校同窓会結成10周年記念式典
 賀県老人大学校同窓会結成10周年記念式典

平成3年度 経 過 報 告

月 日		場 所	こ と が ら
4	24	厚生会館	総務部会 出席役員9名 ・本年度の県総会の開催について協議
5	29	滋賀会館	役員総会 出席役員16名 ・本年度の役割分担の確認 ・研修部、広報部、総務部部会 ・本年度事業内容の決定 ・予算案の決定
6	27	厚生会館	役員総会 出席者 14名 ・老大同窓会のあるべき姿について ・総務・研修・広報各部の事業計画について ・十周年記念事業について
6	10	草津市勤労福祉センター	滋老大同窓会総会 参加者 高島5、大津25、湖南20、甲賀15、 湖東10、近江八幡20、彦根15、 湖北10、 合計 120名 費用 1人当たり 2,500円 日程 会長挨拶 議 事 経過報告、会計報告、予算案の承認 事業計画の承認、十周年記念事業案 新役員の承認と紹介
7	10	厚生会館	研修部会 出席者 5名 ・本年度の研修部事業内容について
8	6	厚生会館	老人大学校同窓会記念事業実行委員会 出席者 6名

月日	場 所	こ と が ら
		<ul style="list-style-type: none"> ・標記事業計画の大綱について
8 19	滋 賀 会 館	老人大学校同窓会記念事業実行委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・標記事業中、記念式典について
8 27	滋 賀 会 館	役員総会 <ul style="list-style-type: none"> ・記念式典および懇親会の計画と実施に伴なう諸問題について ・参加人員について ・協賛金の額と集金方法について
9 5	京 都 方 面	滋老大研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・亀岡－保津峡－嵐山－嵯峨野－トロッコ－亀岡
9 10		滋賀県老人大学校卒業生による 『地域指導者（シニアリーダーバンク）』の作成発刊
9 25	厚 生 会 館	十周年記念事業実行委員会
10 5	アヤハレーク サイドホテル	滋賀県老人大学校十周年記念式典 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者 300 名 高島15、湖南45、甲賀35、湖東40、湖北20、 近八40、彦愛35、大津70 ・式次第 開会のことば 国歌斉唱 黙 禱 同窓会憲章朗読 記念品贈呈 表 彰 会長式辞 来賓祝辞・来賓紹介 意見発表 校歌斉唱 閉会のことば 一同敬礼

月日	場 所	こ と が ら
		<ul style="list-style-type: none"> • 第二部 懇親会 挨拶・乾杯・演芸
10 19	厚 生 会 館	十周年記念実行委員会 <ul style="list-style-type: none"> • 十周年会計決算の承認 • 事業内容の反省
11 28	厚 生 会 館	役員総会 <ul style="list-style-type: none"> • 十周年記念行事の反省 • 十周年記念行事会計決算の承認 • 会誌第10号の発刊について • その他 • 第2回成果展の開催について
12 13	厚 生 会 館	広報部会 <ul style="list-style-type: none"> • 老大同窓会会誌第10号の編集方針について決定
12 13	厚 生 会 館	研修部会 <ul style="list-style-type: none"> • 平成四年度老大同窓会の研修について • 第2回成果展について
3 4 } 9	しがぎんホール	第2回滋老大・同窓会成果展 出展内容(150点) 書、陶芸、手芸、文芸、洋画、日本画、 工芸、写真、彫刻、等
3 12	共 済 会 館	広報部会 <ul style="list-style-type: none"> • 編集会議 (第10号会誌)

平成4年度事業計画 (事務局)

月	場 所	こ と が ら
4	厚生会館	総務部会 ・同窓会県総会について
4		滋老大同窓会会計監査
5		役員総会 研修部会 ・平成4年度研修計画について
5		広報部会 ・滋老大同窓会会誌第10号発刊
5		役員総会 ・県総会について ・各部事業計画について
6	彦根・愛犬支部	滋老大同窓会県総会(6月12日彦根市老人福祉センター)
9		研修部会
10		滋老大同窓会研修旅行(奈良方面)
11		広報部会 ・滋老大同窓会会誌第11号の編集について

平成3年度 会計収支決算報告書

(収入の部)

区 分	予 算 額	決 算 額	差引増減額	適 用
会 費	754,000	978,000	224,000	
繰り越し金	854,457	854,457	0	
雑 収 入	12,000	13,194	1,194	
合 計	1,620,457	1,845,651	225,194	

(支出の部)

区 分	予 算 額	決 算 額	差引増減額	適 用
報 償 費	30,000	30,000	0	
旅 費	110,000	107,120	2,880	
会 議 費	120,000	113,174	6,826	
食 料 費	90,000	90,074	-74	
賃 借 費	30,000	23,100	6,900	
総会研修活動費	1,300,000	1,266,723	33,277	
助 成 費	600,000	574,584	25,416	
印 刷 費	650,000	650,000	0	
賃 借 費	50,000	42,139	7,861	
慶 弔 費	30,000	24,708	5,292	
役 務 費	15,000	12,710	2,290	
通 信 費	15,000	12,710	2,290	
需 要 費	10,000	4,951	5,049	
印 刷 費	5,000	2,634	2,366	
消 耗 品 費	5,000	2,317	2,683	
予 備 費	5,457	0	5,457	
合 計	1,620,457	1,559,386	61,071	
繰り越し金			286,265円	

監査の結果、収入、支出ならびに帳簿等が正確であると認めます。

平成4年5月8日

中 谷 清 司 印

岡 田 富 次 郎 印

滋賀県老人大学校同窓会十周年記念事業

協 賛 金 内 訳

抛 出 支 部 名	金 額
高 島 支 部	8 9,0 0 0 円
大 津 支 部	3 2 3,0 0 0
湖 南 支 部	2 5 0,0 0 0
甲 賀 支 部	2 1 4,0 0 0
湖 東 支 部	2 2 1,0 0 0
近 江 八 幡 支 部	2 3 8,0 0 0
彦 根 愛 犬 支 部	1 3 6,0 0 0
湖 北 支 部	1 2 6,0 0 0
11 期 生 大 津 校	2 0 2,0 0 0
11 期 生 米 原 校	1 7 6,0 0 0
合 計 額	1,9 7 5,0 0 0 円

滋賀県老人大学校同窓会十周年記念事業

協賛金支出内訳

支出品目	数量	支出金額	支払い先
十周年記念会誌	1,200	1,235,000 ^円	大津市大江 吉田印刷所
花瓶	1	811,000	長浜市平方 868-2 大和物産
記念品（筆記具）	300 @ 400	120,000	大津市中央4丁目 ケイセイ社
十周年記念式補助		114,340	大津市におの浜 アヤハレークサイドホテル
表彰者記念品（額縁）	19 @1,400	26,600	大津市松本2丁目 山田文具店
賞状・筆・奉書		5,100	同上
地域指導者一覧表印刷	500 @ 80	40,000	大津市大江 吉田印刷所
表彰者一覧表・内規印刷	350 @ 13	4,550	同上
調査用葉書・印刷	1,000	46,000	同上
記念式典看板	1	20,000	大津市 内田看板
役員会旅費	8	75,300	役員総会 実行委員会
会議費（昼食弁当）	8	43,694	役員総会 実行委員会 （事業報告参照）
支出合計		2,541,584	

滋賀県老人大学校同窓会十周年記念事業

協賛金支出内訳

支出品目	数量	支出金額	支払い先
十周年記念会誌	1,200	1,235,000 ^円	大津市大江 吉田印刷所
花 瓶	1	811,000	長浜市平方 868-2 大和物産
記念品（筆記具）	300 @ 400	120,000	大津市中央4丁目 ケイセイ社
十周年記念式補助		114,340	大津市におの浜 アヤハレークサイドホテル
表彰者記念品（額縁）	19 @1,400	26,600	大津市松本2丁目 山田文具店
賞状・筆・奉書		5,100	同 上
地域指導者一覧表印刷	500 @ 80	40,000	大津市大江 吉田印刷所
表彰者一覧表・内規印刷	350 @ 13	4,550	同 上
調査用葉書・印刷	1,000	46,000	同 上
記念式典看板	1	20,000	大津市 内田看板
役員会旅費	8	75,300	役員総会 実行委員会
会議費（昼食弁当）	8	43,694	役員総会 実行委員会 （事業報告参照）
支出合計		2,541,584	

滋賀県老人大学校同窓会十周年記念事業

会 計 決 算

協 賛 金 支 出 合 計	2,541,584 円
協 賛 金 収 入 合 計	1,975,000
一 般 会 計 支 出	566,584
差 し 引 き 残 高	0 円

A 会員会費 積立額内訳

定 期 預 金	500,000
普 通 預 金	190,000
預 金 利 子	13,370

特 別 寄 附 金

奥 村 由 三 郎 氏	10,000 円
中 川 長 三 氏	300,000 円

積 立 金 現 在 高

1,013,370 円

平成4年度 会計予算案

(収入の部)

区 分	本年度予算額	前年度決算額	差引増減額	適 用
会 費	978,000	978,000	0	
繰り越し金	286,265	854,457	568,192	
雑 収 入	27,000	13,194	13,806	
合 計	1,291,265	1,845,651	554,386	

(支出の部)

区 分	本年度予算額	前年度決算額	差引増減額	適 用
報 償 費	30,000	30,000	0	
旅 費	80,000	107,120	27,120	
会 議 費	120,000	113,174	6,826	
食 料 費	80,000	90,074		
賃 借 費	40,000	23,100		
総会研修活動費	950,000	1,266,723	316,723	
助 成 費	100,000	574,584		
印 刷 費	800,000	650,000		
賃 借 費	50,000	42,139		
慶 弔 費	30,000	24,708	5,292	
役 務 費	40,000	12,710	27,290	
通 信 費	40,000	12,710		
需 要 費	20,000	4,951	15,049	
印 刷 費	10,000	2,634		
消 耗 品 費	10,000	2,317		
予 備 費	21,265	0	21,265	
合 計	1,291,265	1,559,386	268,121	

平成4年度 滋賀県老人大学校同窓会役員名簿

役職名	氏名	住所	〒	電話	備考	
会長	中川 長三	東浅井郡	526-01	0749-72-2382		
副会長	中村 標雄	大津市馬	520	0775-23-1906		
支 部 長	高島	中島 捨雄	高島郡今	520-16	0740-22-1086	総務
	島	三矢 博子	高島郡高	520-11	0740-36-1114	研修
	大	下司 清	大津市際	520	0775-25-0713	研修
	津	磯田 善通	大津市神	520-21	0775-45-0482	広報
	湖	林 秀一	草津市西	525	0775-62-5148	広報
理 事	南	大西 憲司	守山市金	524	0775-83-1425	総務
	甲	島田寅次郎	甲賀郡水	528	0748-62-2435	研修
	賀	千代倉太郎	甲賀郡甲	520-32	0747-72-2964	広報
	湖	大道喜一郎	蒲生郡日	529-16	0748-52-5399	広報
	東	横山久太郎	蒲生郡日	529-16	0748-52-5563	総務
事	近	村井 繁一	近江八幡	523	0748-37-0869	総務
	八	中谷 清司	近江八幡	523	0748-32-2182	研修
	彦根愛犬	野中 正	彦根市平	522	0749-23-3387	研修
		辻 幸夫	彦根市甘	522	0749-28-1445	広報
湖 北	森 量海	長浜市常	526	0749-62-3910	総務	
	松下 保清	坂田郡米	521	0749-54-2395	研修	
監 事	岡田富次郎	近江八幡	523	0748-33-3597		
	中谷 清司	近江八幡	523	0748-32-2182		
幹 事	中村 標雄	上記に同				
	堀野 徳雄	大津市竜	520	0775-21-6944	電話は事務局	
会 計	今井 郁子	茨木市下	567	0775-21-6944		

滋賀県老人大学校同窓会会則

第一条 (名称)

本会は、滋賀県老人大学校同窓会と称する。

第二条 (会員)

本会は、滋賀県老人大学校卒業生をもって組織する。

第三条 (事務所)

本会の事務所は、滋賀県老人大学校本部内におく。

第四条 (目的)

本会は、会員の親睦および老大的発展に寄与することを目的とする。

第五条 (支部)

本会に支部を設け、前条の目的達成をはかる。

第六条 (事業)

本会は、前条の目的を達成するために、左の事業を行なう。

1. 総会
2. 研修会
3. 老後援活動
4. 会報と新聞の発行
5. その他の事業

第七条 (事業部)

本会に事業部をおき、支部長、理事をもって構成し各部員は会長が委嘱し、部長は部員の互選による。

1. 研修部
2. 総務部
3. 広報部

第八条 (役員および役員の選出、任期)

本会に次の役員を置く。

1. 会長一名
2. 副会長一名
3. 理事、各支部二名 (支部長および支部選出者一名)
4. 幹事二名 (会員、事務局から一名)
5. 監事二名。

役員の選出方法

会長及び副会長は、役員会によって選出する。

理事は、各支部から選出する。

監事は、各支部が交替で二名選出する。

役員の任務

会長 本会を代表する。

副会長 会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代行する。

理事 本会の運営に当たる。

幹事 本会の事務を処理する。

監事 会務、会計を監査する。

役員の任期

役員の任期は二年とする。但し再任は妨げない。

第九条 (会議)

総会は、会長が招集し、議長は会員の中から選出する。

総会の議事は、出席者の半数以上の同意をもって決する。

第十条 (顧問)

本会に顧問を置くことができる。

第十一条（経費および会計年度）

本会の経費は、会費をもってこれに当てる。

会費は、終身額一〇、〇〇〇円とする。

（A会員）

但し、年額一、〇〇〇円ずつの納入を認めるものとする。

（B会員）

会計年度

本会の会計年度は、毎年度四月一日から始まって、翌年の三月三十一日をもって終わる。

付則

本会則は、昭和五十五年十月一日から施行する。

（改正）昭和五十七年十月一日から施行する。

（改正）昭和六十年四月一日から施行する。

（改正）昭和六十一年四月一日から施行する。

（改正）昭和六十二年五月二十三日から施行する。

（改正）昭和六十三年六月二十二日から施行する。

（改正）平成元年八月二十五日から施行する。

滋賀県老人大学校同窓会憲章

1. 互いに助け合い、高齢者社会を生きる資質と実践力を高めあう。

2. 心身の健康を保って、社会活動に積極的に参加し、高齢社会の支柱となって働こう。

3. 古き良きものを伝承し、新しきを生み出して、郷土社会の健全な発展に尽くそう。

4. 会員の研修及び老老の発展に寄与する活動を積極的、持続的に推進しよう。

5. 社会の発展に即応する高齢者像の具現のために励みあい、提携し合つ輪を内外に広めよう。

昭和五十七年三月八日制定

滋賀県老人大学校同窓会

滋賀県老人大学校同窓会表彰内規

第1条 老大卒業生で、地域指導者として老人福祉の増進に寄与した者を顕彰するため会長表彰を行なう。

第2条 表彰の区分

1. 地域社会において、指導者として永年活躍し、老人福祉の増進に貢献した者
2. 老人大学校において、学習した成果を生かした創作活動を長年続け、老人福祉に貢献した者
3. 滋賀県老人大学校同窓会の運営に多年従事し、同会の発展につくした者
4. 特別表彰 上の各号の他で功労顕著な者

第3条 表彰の方法

1. 内申は同窓会各支部から内申のあった者について、会長が本会の委員会に諮って決定する。
2. 表彰は原則として、本会の県定期大会か、記念大会において表彰する。
3. 表彰は表彰状と記念品を贈って顕彰する。

第4条 この内規は平成3年4月1日より施行する。

編集後記

前年号の編集にかかっていた頃は、湾岸戦争の始まりであった。世界列強を向こうに廻して、サダム・フセインは、勝目のない戦いを早く止めないかと、祈る思いで眺めていた。

激動の年の、口火を切ったイラクに続き、東欧諸国の非共産党化への歩みの早さに、驚かない者は一人も居なかった。世界の政治家と自他共に許した、ゴルバチョフも「独立国家共同体」の今日の姿を予想することは出来なかった事であろう。C I Sと言う国名を言える人は極めて少ない。物資も経済もドンゾコまで落ち込んだ「独立国家共同体」が分配をこれからどうするのだろうか。膨大な核兵器をどう処理するのだろうか。

北方領土返還は、約束通り日本に返って来るのだろうか。疑えば、切りのない話ばかりである。日本政府も国連の名のもとに、何とか直接援助の側に廻れないかと、苦心しているが、軍隊を持たないことが、ネックになって、何をしてもうまくいかない様だ。

話変わって、去年の十一月十七日現住地の公民館で、N響の地元出身者による、モーツァルト・コンサートを聞きに行った。聞いているうちに、五十年前の恥ずかしい思い出が、次から次へと思い出され、人前にもかかわらず、拭い様のない涙が溢れ出したのである。それは昭和十六年、徴兵検査を受け、第一乙

種に合格し、「入隊まで娑婆で働いてこい」と言われ、再び、北朝鮮東北部の国境近くの街で教員をしていた。其処は、極寒マイナス四十七度で、感覚を失い、友達はなく、相談相手のない一人ぼっちの暮らしに堪え切れず、戦争の拡大を、恨めしく、シンガポール陥落や、大東亜戦争が、大きい苦になり、ついには、夜も日も安んずる所が、無くなり、ノイローゼになった。山の寺で座禅をしたが、雑念が増すばかり、酒を飲んでも瞬間のみ、フト或朝、渡鳥の大群の声が、美しく聞こえ「こんな音盤があるかも知れない」と思い、二十K離れた街へ買いに行った。目的のものは無かったが、西洋音楽があった。その晩から音盤を聞いた。何十回と聞いているうちに、心に落ち着きが出来てきた。私は音楽が極めて不得手で、いつも女の先生に美術の授業と交換して貰っていた。その私が音楽に救われたのである。止めども無く涙を流して、曲を聞き、病気に打ち勝ったのである。昭和十七年一月八日晴れ晴れとした顔で、敦賀三十六部隊の衛門を潜っていた。あの時と同じ熱い涙がモーツァルト・コンサートを聞きながら流したのを、誰が知るものぞ。

私達は、永い永い悠久の歴史の中に、くっ付き合って生きている事を、心の隙間から、知らされたのである。

平成四年三月

広報部長 林 秀一

発行所

大津市京町四丁目三十二十八

滋賀県老人大学校

同窓会事務局

平成四年六月十日発行